

# 認定特定非営利活動法人みちのくトレイルクラブ

## 令和7年度 事業報告



## 目次

### 1. 特定非営利活動に係る事業

1.1.トレイルの整備・維持管理事業.....	1
1.2.トレイルに関わる各種事業及び連絡調整・連携事業.....	8
1.3.トレイルや周辺の自然環境を活用した企画・実施事業.....	16
1.4.トレイルや地域の歴史、自然、文化に関わる啓発及び情報発信事業.....	40
1.5.トレイルに関わる調査・研究事業.....	58
1.6.トレイルに関わる人材育成・ガイド養成事業.....	58
1.7.上記目的を達するために必要な施設等の活用及び受託管理事業.....	59
1.8.その他、第3条の目的を達成するために必要と認められる事業.....	71

### 2. その他事業

2.1.旅行業法に基づく旅行業.....	79
2.2.旅行業法に基づく旅行業者代理業.....	79
2.3.宿泊施設及びガイドのあっせん事業.....	79
2.4.トレイルに関する旅行商品企画事業.....	79
2.5.トレイル関連商品の販売事業.....	80

事業種別	(1)-① トレイルの整備・維持管理事業	事業番号	(1)-①-1
事業名 業務名	地球環境基金助成事業		
期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
委託元	地球環境基金		
関係団体	NPO 法人 体験村・たのはたネットワーク、一般社団法人浄土日和、一般社団法人大船渡市観光物産協会、階上町、釜石市、大槌町、八戸自然保護官事務所、大船渡自然保護官事務所ほか		
担当者	業務主任:松川亮太 業務補佐:岡海咲		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b></p> <p>① 整備・維持管理事業</p> <p>みちのく潮風トレイル(以下、MCT という)における環境配慮型整備の考え方を理解した人材が増え、その方法によって整備されたトレイルを歩ける状態が維持されていることを目標に、以下の活動を実施した。</p> <p>活動1 環境配慮型の整備に係る指針と手法を確立する</p> <p>活動2 上記指針と手法を普及、実践する人材を養成し、実践体制を確立する</p> <p>活動3 整備活動を持続させるために、収益化を図る</p> <p>② みちのく潮風トレイル調査事業</p> <p>また、地球環境基金の助成金を活用し、北のターミナス(青森県八戸市蕪島)から南のターミナス(福島県相馬市松川浦環境公園)までトレイル全線をハイキングマップック、データブックを使用しスルーハイキングし、みちのく潮風トレイルの調査を実施した。調査は(一社)トレイルブレイズハイキング研究所に依頼した。</p> <p><b>【目的】</b></p> <p>① 整備・維持管理事業</p> <p>近年の気候変動に対応し、かつ環境に配慮しながら、MCT を常に歩ける状態に維持するための整備を行うことを目的とした。</p> <p>② みちのく潮風トレイル調査事業</p> <p>みちのく潮風トレイルのハイキングの質を向上させることを目的に、トレイル全線の路体調査並びに利用者、各施設等について調査を実施した。</p> <p><b>【実施内容】</b></p> <p>① 整備・維持管理事業</p> <p>(1) 活動1 「みちのく潮風トレイル 保全ガイドライン」の策定 「みちのく潮風トレイル 保全ガイドライン」完成版を策定・発行した。</p> <p>(2) 活動2 「みちのく潮風トレイル 保全ガイドライン」の普及 「保全ガイドライン」普及のため、「整備実地研修会」を2回(石巻市、亘理町)開催し、</p>			

整備リーダーを育成した。

(3) 活動3 整備活動を持続させるための収益化

整備モニターツアーを2回開催した。

② みちのく潮風トレイル調査事業

(1) ハイカー調査

トレイル上で出会ったハイカーについて、人数、出会った場所、スルーハイカーかセクションハイカーなどを記録した。スルーハイカーは歩いている向き、セクションハイカーはこれまで歩いた場所や距離などを確認した。

(2) 路体調査

路体の安全面、利用面、環境面について調査・記録した。

(ア)安全面(倒木、崩落、工作物の老朽化など)

(イ)利用面(草刈り、マーカー・道標、ステップの埋没など)

(ウ)環境面(ガリーの発生、ゴミの放置、外来種など)

(3) マップブックやデータブックの変更点精査

マップブックやデータブックの変更点(地形、GPS、各施設・商店等)について調査・記録した。



整備実地研修会\_亘理町四方山の様子



整備モニターツアー\_釜石市石塚峠の様子

考察、及び今後の展開

保全ガイドラインの本格運用を経て、沿線全体で環境配慮型の整備を進めるための共通の土台が少しずつ整ってきた。地域の関係団体への技術共有も進み、それぞれの地域が主体となった独自の整備活動が自立的に広がりつつある。また、トレイル調査からヒントを得たハイカー目線の情報発信や「Leave No Trace(LNT)」の普及活動は、歩く人の保全への意識を高め、「利用と保全の心地よい循環」を生み出す大切な一歩となった。今後は、各地のリーダーや団体の皆様による日々の整備活動を支援し、全線のよりよい環境をともに維持していく。経済的な自立を目指すとともに、分かりやすい情報発信を通じて、国内外の多くのハイカーに愛され、支えられる体制づくりを進めていく方針である。

事業種別	(1)-① トレイルの整備・維持管理事業	事業 番号	(1)-①-2
事業名 業務名	新地町整備事業		
期間	令和7年 11 月 29 日、12 月 13 日		
委託元	株式会社サングラフィックス		
関係団体	新地町		
担当者	業務主任:晴山功 業務補佐:松川亮太		

実施内容

【事業概要】

令和7年 11 月 29 日および 12 月 13 日、福島県新地町の鹿狼山にて「登山道整備教室」が開催された。本事業は新地町が主催し、株式会社サングラフィックスが事務局、認定特定非営利活動法人みちのくトレイルクラブが講師を務めている。復興進捗の発信や交流人口拡大を目指した「しんち魅力体感・発信事業」の一環として実施され、両日とも県内外から 10 名ずつの参加者が集まった。

【目的】

町のアクティビティスポットである鹿狼山を活用した検証・モニターツアーを行い、SNS 等で「いま」の魅力を広く発信することを目的とする。これにより、風評払拭、町の認知度向上、および交流人口の回復と拡大を目指している。

【実施内容】

イベントは午前と午後の二部構成で実施された。午前中はトレイル観察会を行い、山頂での休憩後、午後は環境配慮型の登山道整備を実施した。階段が高すぎる箇所や土砂が堆積した課題に対し、石段を覆う土砂や落ち葉を取り除き、歩きやすく安全なトレイルへと修繕を行った。



整備活動の様子

#### 考察、及び今後の展開

本ツアーを通じて、初めて整備を体験する参加者が多いなかでも、石段の土砂や落ち葉を除去し、安全で歩きやすいトレイルへと修繕できることが実証された。また、トレイル観察会と整備活動を組み合わせたプログラムは、参加者の山への愛着や環境保全への意識を高める「利用と保全の心地よい循環」を生み出す契機となった。今後は、この新地町での事例をモデルとして、一般の登山客やハイカーが楽しみながら保全を支えるエコツーリズム事業として定着させるとともに、SNS等を活用した情報発信により、鹿狼山やみちのく潮風トレイル、保全活動の魅力を広く伝え、さらなる交流人口の拡大へと繋げていく。



事業種別	(1)-① トレイルの整備・維持管理事業	事業 番号	(1)-①-3
事業名 業務名	CCC との共同整備と Trail Maintenance Meeting 開催		
期間	令和7年9月 14 日、10 月 1 日		
委託元	-		
関係団体	共催:一般社団法人大船渡地域戦略 協力:NPO 法人信越トレイルクラブ、奥ジャパン株式会社、日本航空株式会社 協賛:さいとう製菓株式会社、大船渡温泉(株式会社海楽荘) 後援:環境省東北地方環境事務所、岩手県、大船渡市、みちのく潮風トレイル関係自治体協議会、三陸ジオパーク推進協議会、三陸鉄道株式会社、株式会社東海新報社、株式会社 IBC 岩手放送		
担当者	業務主任:相澤久美 業務補佐:晴山功、松川亮太、岡海咲、坂本麻由子		
実施内容	<p><b>【事業概要】</b>          2025 年 9 月 10 日、米国の環境保全・人材育成団体「カリフォルニア・コンサベーション・コー(CCC)」を招致し、地域関係者や一般参加者と協働でのトレイル整備、および持続的な保全を議論する「Trail Maintenance Meeting 2025 in 大船渡」を実施した。</p> <p><b>【目的】</b>          米国で培われた CCC の高度な理論に基づく整備技術や排水対策の手法を国内の関係者へ共有し、持続可能なメンテナンス体制を構築することを目指した。また、日米の専門家や市民が結集するシンポジウムを通じ、災害からの環境復旧に関する知見の深化と、地域コミュニティの防災・保全意識の向上を図った。</p> <p><b>【実施内容】</b>          米国の CCC と約 2 週間かけて沿線の課題箇所を巡り、自治体や環境省等と検討を重ねながら、亘理町の四方山、八戸市の種差海岸、洋野町・久慈市の高家川の調査のほか、釜石市の鋸台峠や石塚峠でのトレイルメンテナンスを実施した。また「Trail Maintenance Meeting 2025 in 大船渡」では三陸公民館等でシンポジウムを開催し、国内外の整備事例報告や今後の保全方針を議論した。翌日には綾里峠と綾里崎周辺で実践型整備を実施。初心者向けには草刈りや障害物除去を行い、経験者向けには CCC 指導のもと、湧水箇所を特定した水切り設置や、石材・コンクリートブロックを用いた泥濘対策などの本格的な排水施工を行った。</p>		



「Trail Maintenance Meeting 2025 in 大船渡」の様子

考察、及び今後の展開

CCC との約2週間にわたる沿線調査や釜石市等での実践は、各地の課題に応じた理論的ケアの重要性を浮き彫りにした。この国際協働で得た高度な排水・路面施工技術を保全ガイドライン等に反映させ、沿線全域の日常的な維持管理へ落とし込むことが必要である。今後は自治体や環境省との連携をさらに深め、ボランティア基盤を拡大しながら、災害に強く持続可能な巡視・メンテナンス体制を確立していく。

事業種別	(1)-①トレイルの整備・維持管理事業	事業番号	(1)-①-4
事業名 業務名	大船渡林野火災に対する対応		
期間	令和7年6月 19 日～令和7年8月 22 日		
委託元	-		
関係団体	環境省大船渡管理官事務所、岩手県、大船渡市、(一社)大船渡地域戦略		
担当者	業務主任:相澤久美 業務補佐:坂本麻由子		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b> 令和7年2月に発生した林野火災を受け、大船渡市内のみちのく潮風トレイル被災区間において定期巡視を実施した。火災後の路体や周辺地形の変化を定期的に確認し、危険箇所の早期発見および対応につなげるため、関係者による巡視体制を構築した。</p> <p><b>【目的】</b> 林野火災の影響により変化したトレイル環境(路面の不安定化、倒木、土砂流出等)を把握し、ハイカーの安全確保に資するとともに、危険箇所の早期発見・対応を可能とすることを目的とする。また、関係機関の連携のもと、継続的な安全管理体制の確立を図る。</p> <p><b>【実施内容】</b> 関係機関と連携し、月1回綾里崎と綾里峠の2コースの定期巡視を実施した。巡視では、倒木リスク、路体の崩落や浸食、植生回復状況等を確認し、危険箇所の把握を行った。必要に応じて草刈りなどを行い、巡視結果は関係者間で共有し、今後の対応方針の検討に活用した。</p>			
令和7年4月の綾里崎被災エリアの様子		令和7年8月の綾里崎被災エリアの様子	
			
<p><b>考察、及び今後の展開</b></p> <p>火災後のトレイル環境は時間経過とともに変化するため、継続的な巡視の実施が安全確認において重要であることが再確認された。また、多様な関係機関が連携して巡視を行うことで、活発な議論や情報共有、迅速な対応判断が可能となる体制が構築された。本定期巡視は所期の目的を達成し、現在は通常の管理体制へ移行している。今後は、通常巡視の中で状況把握を継続するとともに、必要に応じて臨時巡視を実施するなど、柔軟な対応により安全管理体制の維持・強化を図る。</p>			

事業種別	(1)-② トレイルに関わる各種事業及び連絡調整・連携事業	事業番号	(1)-②-1
事業名 業務名	令和7年度みちのく潮風トレイル 名取トレイルセンター管理運営等業務 (3)みちのく潮風トレイル全線の運営に関する業務、(4)みちのく潮風トレイル名取サテライト区間の運営に関する業務、(5)みちのく潮風トレイル統括本部としての業務、(6)報告書の作成		
期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
委託元	東北地方環境事務所		
関係団体	運営計画構成員		
担当者	業務主任:松川亮太 業務補佐:岡海咲		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b></p> <p>「令和7年度みちのく潮風トレイル 名取トレイルセンター運営協議会事業基本計画」事業1に基づき、サテライトと連携して、トレイル全線の運営にあたった。業務実施後、四半期毎に報告書としてまとめ、委託元に提出した。(事業(1)-⑦-1でも同基本計画の事業1を実施している)</p> <p><b>【目的】</b></p> <p>みちのく潮風トレイル全線及び名取トレイルセンターの運営を円滑に実施し、みちのく潮風トレイルが地域やハイカーと共に育てられ成長すること、結果、東北沿岸の振興に資する持続可能なトレイルとして東北沿岸に根付くことを目的とし本事業を実施した。</p> <p><b>【実施内容】</b></p> <p>① トレイル沿線の情報収集及び発信 トレイル全線の情報を収集するため、構成員に一斉巡視等を依頼し、サテライト経由でその情報及び適宜必要な情報を収集した。収集した情報は整理し、運営上有益な情報は、サテライトを経由し、路線管理者に情報共有を行った。対応が必要な場合は、東北地方環境事務所担当官またはサテライトを経由し、路線管理者に対応を依頼した。</p> <p>② 地域連絡会の開催 運営計画に基づき、トレイルの運営に関しての課題や情報共有を図るため、サテライトと協力して、各管轄区間の県、市町村を参集し、地域連絡会を開催した。</p> <p>③ サテライト連絡会の開催 運営計画に基づき、トレイル全線を運営していくための課題や情報の共有、運用方針について協議するため、サテライト連絡会を2回開催した。</p> <p>④ 国立公園管理事務所、国立公園管理官事務所、自然保護官事務所との打ち合わせの実施 運営計画に基づき、トレイル全線を運営していくための課題や情報の共有、運用方針について管理官事務所等と協議するため、打合せを2回開催した。</p> <p>⑤ トレイル沿線で翌年度実施予定のイベント情報の収集 年度末に運営計画構成員から、次年度トレイル沿線で実施予定のイベント情報を収集し取りまとめ、HPで発信した。</p>			

⑥ みちのく潮風トレイル名取サテライト区間の運営に関する業務

宮城県東松島市～福島県相馬市までのサテライト管轄区間における情報を関係者から直接収集集約し、関係者と情報共有を行うとともに、適宜現地を確認し、情報収集を行った。

⑦ インタープリテーション全体計画の周知・啓発に係る対応

みちのく潮風トレイルインタープリテーション全体計画の周知・啓発に向け、関係団体等への研修会を開催した。有識者を招き、環境省側と事前協議の上で意見交換を行った。

⑧ みちのく潮風トレイルにおける海上での安全対策に係る対応

連携強化の一環として、みちのく潮風トレイルの海上安全対策に係る対応を実施した。管轄の海上保安部・署へのヒアリングや意見交換を行い、事故対応マニュアル案と連絡フロー図案を作成した。

⑨ 報告書の作成

上記業務を実施後、四半期毎に報告書としてまとめ、委託元に提出した。



収集した情報は適宜 HP にて発信した





サテライト連絡会の様子(南三陸町にて実施)

考察、及び今後の展開

運営計画構成員やハイカー等の協力のもと、トレイル全線に関する情報の収集、名取トレイルセンター等での情報発信など、円滑に進めることができた。令和8年度においても適正かつ効果的に事業を実施する。

事業種別	(1)-② トレイルに関わる各種事業及び連絡調整連携事業	事業番号	(1)-②-2
事業名 業務名	地域事業者との連携(ウェブ会議)		
期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
委託元	-		
関係団体	各サテライト運営組織		
担当者	業務主任:松川亮太 業務補佐:岡海咲		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b> 「みちのく潮風トレイル運営計画」に定められたサテライト施設を運営する組織やその他トレイル関連事業を協働する組織との情報共有や課題等を協議するために、月一回程度を目安にウェブ会議を開催した。</p> <p><b>【目的】</b> 広域連携の取り組みである MCT の運営に関して、より主体的な立場であるサテライト施設の運営団体と、さまざまな取り組みを円滑に進めるためには信頼関係と連携体制の構築が不可欠である。定期的に各団体が持つ各地の最新情報、取り組み状況、課題等共有し、中長期的にトレイル全線の利用推進に必要な取り組みを見極めることを目的とし、ウェブ会議を開催した。</p> <p><b>【実施内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4月07日(月) 9:15～ 近況報告、マップブックとデータブック改定などについて</li> <li>5月12日(月) 9:15～ 近況報告、地域連絡会などについて</li> <li>9月04日(木) 9:15～ 近況報告、CCC との協働メンテナンスなどについて</li> <li>10月06日(月) 9:15～ 近況報告、トレラン大会などについて</li> <li>11月10日(月) 9:15～ 近況報告、インタープリテーション研修会などについて</li> <li>12月08日(月) 9:15～ 近況報告、安全対策などについて</li> <li>3月04日(水) 9:15～ 近況報告、みちのく潮風トレイル専用航路などについて</li> </ul>			
<p>考察、及び今後の展開</p> <p>年2回開催しているサテライト連絡会とともに、このウェブ会議は、サテライト施設を運営する地域団体間との情報共有や課題解決に向けた協議の場として、非常に有益であるため、今後も継続して開催する。統括本部としてトレイル運営に取り組むだけでなく、東北沿岸の歩く旅の文化を醸成させることを目的とする当法人として、地域事業者への適切な情報提供と資金的サポートを常に意識し取り組む必要があると考える。</p>			

事業種別	(1)-②トレイルに関わる各種事業及び連絡調整・連携事業	事業番号	(1)-②-3
事業名 業務名	日高トレイル視察団等受け入れ		
期間	令和7年9月6日～令和7年9月9日		
委託元	一般社団法人トレイルブレイズハイキング研究所		
関係団体	北海道日高管内自治体、観光関係者、北海道運輸局		
担当者	業務主任:相澤久美 業務補佐:坂本麻由子		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b> 北海道日高地域におけるロングトレイル構想の参考事例として、「みちのく潮風トレイル」の運営・維持管理・地域連携等を学ぶために来訪した、北海道運輸局及び関係団体による視察の受け入れを実施した。</p> <p><b>【目的】</b> 国内先進事例である「みちのく潮風トレイル」の現地視察を通じ、ロングトレイルの運営体制や維持管理手法、地域連携、ハイカー受け入れ、観光活用等について理解を深め、北海道日高地域におけるトレイル構想推進の参考とすることを目的として実施した。</p> <p><b>【実施内容】</b> 令和7年9月6日～9日の4日間にわたり、大船渡市、陸前高田市、気仙沼市、南三陸町、名取市を巡る視察行程を実施した。トレイルルートの現地視察、関連施設や拠点の見学、地域事業者・移住ハイカー・行政関係者との意見交換を行うとともに、ハイカー受け入れや地域連携の具体的な事例紹介を実施した。</p>			
<p>トレイルエンジェルとの交流</p> 		<p>自治体の取り組み紹介</p> 	
<p><b>考察、及び今後の展開</b></p> <p>本視察を通じて、ロングトレイルが地域資源の活用や交流人口の創出、関係人口の拡大に寄与することへの理解促進につながった。また、地域住民や民間事業者との継続的な連携、ハイカー受け入れ環境の整備・情報発信の重要性について認識を共有した。今後も他地域との情報交換や視察受け入れを継続し、ロングトレイル文化の普及と広域的なネットワーク形成を推進していく。</p>			

事業種別	(1)-②トレイルに関わる各種事業及び連絡調整連携事業	事業番号	(1)-②-4
事業名 業務名	みちのく潮風トレイルサポーターズ		
期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
委託元	-		
関係団体	沿線事業者		
担当者	業務主任:相澤久美 業務補佐:松川亮太、岡海咲、高橋百合子		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b> みちのく潮風トレイル沿線において、ハイカー向けの特別なサービスやサポートを提供する地域事業者や施設が増加している。これらの情報を取りまとめ、当法人 HP において「みちのく潮風トレイルサポーターズ」として情報発信を行っている。</p> <p><b>【目的】</b> 地域事業者や施設によるハイカーへの特別なサポートは、「みちのく潮風トレイルを盛り上げていきたい」「ハイカーとの交流の機会を持ちたい」等の、地域の方々のご厚意で行っていただいているものだが、これらの情報をハイカーに届け、地域の方とハイカーの一層の交流の機会となるとともに、ハイカーが計画を立てる際の一助となることを目的に、当法人 HP での情報発信を行っている。</p> <p><b>【実施内容】</b></p> <p>① HP での情報発信 「みちのく潮風トレイルサポーターズ」は令和3年度からHPへの掲載を開始しており、令和7年度は新たに以下の22事業者を登録。行政からまとめて登録の依頼があったこともあり、登録件数は前年度比で4件増えた。</p> <p>(1) 八戸市／喫茶へバナ／給水、トイレ、充電 (2) 八戸市／八戸ゲストハウス トセノイエ／宿泊者への各サービス (3) 宮古市／グリーンピア三陸みやこ／トイレ (4) 釜石市／御箱崎の宿／宿泊者への各サービス (5) 釜石市／花月邸 KAGETSUTEI／給水、トイレ、休憩、充電、Wi-Fi (6) 大船渡市／ニュー オキライ／給水、トイレ、休憩、充電、Wi-Fi (7) 陸前高田市／陸前高田ハイカーサポーターズ／リンク先にて各市内事業者を紹介 (8) 陸前高田市／ワタミオーガニックランド株式会社／トイレ、充電 (9) 気仙沼市／半造レストハウスおおがまテーブル／給水、トイレ、充電、休憩など (10) 気仙沼市／リアス唐桑ユースホステル／給水、トイレ、充電など (11) 気仙沼市／ヤマヨ食堂／給水、トイレ、充電 (12) 気仙沼市／グランピング&amp;キャンプ CAMELLIA 気仙沼大島／給水、トイレ、充電、Wi-Fi、ハイカー宿泊プラン</p>			

- (13) 気仙沼市／株式会社角星／給水、トイレ、充電
- (14) 気仙沼市／気仙沼プラザホテル／給水、トイレ、充電、日帰り温泉割引など
- (15) 気仙沼市／中華家いか／給水、トイレ、充電
- (16) 気仙沼市／気仙沼パークホテル／トイレ、充電
- (17) 気仙沼市／番屋みんなこま／給水、トイレ、充電
- (18) 気仙沼市／三陸印刷株式会社／給水、トイレ
- (19) 気仙沼市／ゲストハウス架け橋／給水、トイレ、充電
- (20) 仙台市／シーサイドガイアリゾートホテル／給水、トイレ、充電、Wi-Fi、宿泊割引
- (21) 相馬市／鳥久精肉店／給水、トイレ
- (22) 相馬市／遊学の宿いさみや／給水、トイレ

② サポーターズ施設訪問

地域連絡会やサテライト連絡会、その他イベント時等、職員が各地を訪れる機会に合わせて、サポーターズ施設や HP への情報発信を希望する施設を訪問した。

考察、及び今後の展開

現在 27 市町村の 138 事業者を HP にて情報発信している。市町村は前年度比で1市増えた。事業者の方々に迷惑がかからないようハイカーのマナー啓発にも取り組んでいる。事業者とハイカーが主体的に独自のハイキングイベントなどを開催されており、地域に賑わいをもたらしている。また、各自治体担当者やサテライト施設職員から地元の事業者にお声掛けいただきサポーター施設に応募いただくケースも増えている。登録がまだ無い残り2市について自治体などと協力し事業者への声掛けを行っていききたい。

事業種別	(1)-② トレイルに関わる各種事業及び連絡調整・連携事業	事業番号	(1)-②-5
事業名 業務名	他企業・団体との連携		
期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
委託元	-		
関係団体	(株)日本航空、東日本旅客鉄道(株)、(同)THREE GOATS、日本郵便(株)		
担当者	業務主任:相澤久美 業務補佐:各職員		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b></p> <p>① 日本航空:</p> <p>(1)東屋修繕</p> <p>令和7年2月の林野火災により被災した、大船渡市三陸町綾里地区のトレイル関連施設(東屋)の修復において、企業連携の一環として日本航空による支援が行われた。地域住民と企業が協働し、トレイル利用者の受入環境の再整備が図られた。被災した東屋の修復作業において、日本航空の社員が参加し、地域住民と協働で作業を実施した。また、資材面においても外部団体の協力を得ながら復旧を進め、施設の安全性を確保した。企業人材の参画により、作業の円滑化および復旧の加速、地域住民との交流が図られた。</p> <p>(2)日本航空:国内外へのプロモーション</p> <p>日本航空と令和6年度より、文化庁日本博事業にて映像・誌面でのプロモーションや旅行会社エージェント、海外雑誌記者、インフルエンサーを招聘した FAM トリップを実施するなど主に国外へのプロモーション事業を継続して実施している。(詳細は日本博事業報告に記載)。国内に向けては、日本航空の旅行商品(JAL パック)HP へみちのく潮風トレイルの特集ページを作成、掲載している。また、令和6年度から継続して、みちのくの空の玄関口の一つであるいわて花巻空港のターミナル内にみちのく潮風トレイルを紹介するブースを出展しており、国内外からみちのくを訪れる来訪客へのPRを行っている。</p> <p>② 東日本旅客鉄道</p> <p>駅構内での PR およびイベント開催による誘客</p> <p>各駅へのみちのく潮風トレイルポスターを掲示して頂いた他、各種イベントへ講師として登壇した。また、同社が主催する「駅からハイキング」では、みちのく潮風トレイルとコラボレーションしたコースが多数開催されている。</p> <p>③ THREE GOATS</p> <p>ハイカーの利便性向上のための業務提携</p> <p>みちのく潮風トレイルのハイキングを計画している国内外のハイカーからの荷物配送、宿泊手配などの問合せに対し旅行業を保有していない当法人に変わり、ハイカーへの情報提供、手配が可能となるよう、業務提携を行った。</p> <p>④ 日本郵便:ラッピングポスト及びオリジナルフレーム切手の制作、設置</p>			

みちのく潮風トレイル オリジナルフレーム切手を制作し、TRAILGATEの他、各郵便局窓口にて販売している。また、名取トレイルセンターにオリジナルポストを設置し、ハイカーや地域住民に対しての利便性の向上を図る。

その他、各企業・団体と共催、協力した各事業については別途各事業報告として記載する。

### 【目的】

企業との連携による人的・物的支援を活用し、トレイル関連施設の早期復旧を図るとともに、企業参加による地域支援のモデル構築および関係人口の創出・拡大につなげることを目的とする。

1. ①被災直後の東屋



1. ①東屋修繕実施後の集合写真



1. ②いわて花巻空港内展示



4. ラッピングポスト除幕式



### 考察、及び今後の展開

企業が地域の災害復旧に主体的に関与する有効な事例であり、人的支援のみならず、地域との関係構築や継続的な関与の契機となる点で意義が大きい。特に日本航空の参画は、広域からの支援を呼び込む可能性を示すものであり、今後のトレイル運営における企業連携の推進に資するものと考えられる。今後は、こうした企業連携を一過性に終わらせることなく、継続的な協働関係の構築や他企業への展開を図るとともに、復旧支援から地域価値創出へとつなげていくことが重要である。

事業種別	(1)-③ トレイルや周辺の自然環境を活用した企画・実施事業	事業番号	(1)-③-1
事業名 業務名	日本博 2.0 受託事業		
期間	令和7年4月 15 日～令和8年2月 28 日		
委託元	文化庁		
関係団体	(株)日本航空、(一社)トレイルブレイズハイキング研究所、奥ジャパン(株)、(株)ボックスグラフ、(株)ディスプレイ、The Japan Travel Company(株)、(株)フリックススタジオ、(同)マトイクリエイティブ、NPO 法人 JCDN、(一社)VISIT はちのへ、(同)THREE GOATS、三陸ジオパーク推進協議会、(株)かまいし DMC、三陸鉄道(株)、三陸国際芸術推進委員会、(株)海楽荘、石巻圏観光推進機構、(株)インアウトバウンド東北、NPO 法人ふくしま浜街道トレイルアソシエーション		
担当者	業務主任:相澤久美 業務補佐:晴山功		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b></p> <p>文化庁より、日本博 2.0 を契機とする文化資源コンテンツ創成事業「最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業」を受託し、国内はもとより特にインバウンド向けに、三陸沿岸地域へ誘客と、みちのく潮風トレイルの歩き旅を通じて、三陸ジオパークなどに代表される三陸沿岸地域の自然、文化、歴史に触れることで来訪者の満足度向上を図るため、旅行商品造成、プロモーション、海外メディアへの記事掲載を行った。文化庁からの当事業受託は3か年の取組みで令和7年度が最終年度である。</p> <p><b>【目的】</b></p> <p>令和6年度まではみちのく潮風トレイルをより広く知っていただけるよう広報に力を入れたが、令和7年度は野外活動やロングトレイルハイキング趣向者へターゲットを絞りプロモーションやメディア露出に取り組み国内外での認知度を向上させること、また、過去に造成した旅行商品等を利用した誘客に繋げることに注力した。</p> <p>令和6年度までに当事業で造成した訪日客向けのみちのく潮風トレイル北部～中部エリアにおける歩き旅の旅行商品販売は順調であるため、令和7年度はみちのく潮風トレイル南部エリアの旅行商品造成を行い更なる三陸沿岸部への誘客を目指すことを目的とした。</p> <p><b>【実施内容】</b></p> <p>① 日本航空と連携したプロモーション : 6月～12月 インバウンドおよび在日外国人をメインターゲットに、国内線・国際線の日本航空グループ旅客機内の情報誌 SKYWARD への記事掲載と国際線機内での映像放映にてみちのく潮風トレイルのプロモーションを実施した。</p> <p>② 海外インフルエンサーの SNS での動画配信による PR : 9月～12月 SNS でハイキングコミュニティに7万人以上のフォロワーを持つインフルエンサー (Elina Osborn 氏) にみちのく潮風トレイルをスルーハイキングしながら YouTube、instagram にて動</p>			

画発信を行い来訪者増に資するPRを実施した。

- ③ 海外旅行誌、Web サイトへのみちのく潮風トレイルの記事掲載：11月～3月  
令和元年にみちのく潮風トレイルをスルーハイクした英国ジャーナリスト (James Clark 氏)、  
独国記者にみちのく潮風トレイルの紹介記事を執筆してもらい、英国、豪国の HP、旅行誌  
に掲載。独国記者は日本航空と連携し11月に招聘を行った。
- ④ 国内ゴールデンルート(熊野古道沿線)でのプロモーション：10月26日～10月27日  
ゴールデンルートである熊野古道中辺路エリアでみちのく潮風トレイルのPR イベントとアン  
ケートを実施した。イベント実施は奥ジャパンの中辺路事務所にご協力頂いた。
- ⑤ 映像作品の国外映画祭等での放映：3月  
一昨年度の同事業で英国映像作家が制作したみちのく潮風トレイルとその沿線の文化資源  
を紹介する映像作品を英国ジャパンハウスや、米国、英国などの映画祭で放映し、みちのく  
潮風トレイルを始め三陸の魅力を海外に伝えた。
- ⑥ 英語版の企画・造成とオンラインによる発信：7月～3月  
みちのく潮風トレイル沿線の歴史・文化・食・芸能・地形や植生などが記載された、英語版の  
ガイドブックを制作し、オンラインによる無料頒布を行い、三陸の魅力を深く触れてもらい、  
現地に訪れる旅行者の満足度向上に資するよう取り組んだ。
- ⑦ 三陸全体の更なるインバウンド誘客を図るため、みちのく潮風トレイルの北部・中部エリアより  
比較的に来訪客が少ない南部エリアについて、歩き旅の旅行商品造成を行った。商品造成  
については、過去にセルフガイドツアーを含め、北部・中部での旅行商品造成で実績のある  
WALK JAPAN に依頼した。
- ⑧ EXPO2025 関西・大阪万博への展示ブース出展：6月13日～6月15日  
日本の歴史・文化・自然に興味を持つインバウンド旅行者、在日外国人、および国内の旅行  
者等に、東北三陸海岸エリア4県 29 市町村の魅力等情報を提供し、みちのく潮風トレイル  
への誘客を増やすようPRを実施した。展示ブース出展には三陸の各事業者、DMO などの  
協力を得て実施した。

日本航空機内誌(SKYWARD)紙面



日本航空国際線機内放映映像



映像作品の映画祭放映



熊野古道でのPR・アンケート実施



独国記者の取材



EXPO2025 でのブース出展



考察、及び今後の展開

年々、みちのく潮風トレイルを訪れている海外のハイカー数は着実に増加傾向にあり、今後も利用者の増加が見込まれている。ガイドツアー・セルフガイドツアーのみならず、FIT においても着実に増加している。令和7年度で当事業は3か年目で終了となるが、今後も国内外の事業者等と協力し、国内外の特にロングディスタンスハイキング趣向者へみちのく潮風トレイルおよび沿線の三陸地方の魅力を発信していく。

事業種別	(1)-③ トレイルや周辺の自然環境を活用した企画・実施事業	事業番号	(1)-③-2
事業名 業務名	名取市受託事業「令和7年度 観察会業務」		
期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
委託元	名取市		
関係団体	宮城植物の会、那智が丘公民館、熊野那智神社、日本野鳥の会 宮城県支部		
担当者	業務主任:松川亮太 業務補佐:柳田真澄、早坂瑞穂		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b>  自然観察会を令和7年4月26日(土)に名取市高舘山で開催し、野鳥観察会を令和8年1月31日(土)に名取トレイルセンターから名取川河口までを歩きながら実施した。多くの名取市民に参加していただき、歩く楽しさと名取市の自然の豊かさ・大切さを知っていただくことができた。</p> <p><b>【目的】</b>  地域交流および野外活動教育。名取市の自然の中を歩きながら、地域の植物や野鳥に親しむことで、自然を身近に感じてもらい、市民に自然の大切さを広めることを目的としている。</p> <p><b>【実施内容】</b></p> <p>① 自然観察会  開催日:令和7年4月26日(土)  講師:宮城植物の会 加藤氏、杉山氏  参加者数:15名</p> <p>② 野鳥観察会  開催日:令和8年1月31日(土)  講師:日本野鳥の会 宮城県支部 佐竹氏、小林氏  参加者数:21名</p>			
① 自然観察会の様子(1)		① 自然観察会の様子(2)	
			

② 野鳥観察会の様子(1)



② 野鳥観察会の様子(2)



考察、及び今後の展開

本事業は令和7年度で5年目を迎えた。自然観察会、野鳥観察会共に例年好評をいただいております。継続を望むご意見を多くいただいている。参加層はご高齢の方やお子様連れの方など老若男女幅広い世代。

アンケートや現場での参加者からの声として、他の場所や季節での観察や他の観察対象についても希望する回答があった。

事業種別	(1)-③ トレイルや周辺の自然環境を活用した企画・実施事業	事業番号	(1)-③-3
事業名 業務名	うつくしま浜街道観光推進会議/ふくしま浜街道トレイル		
期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
委託元	福島県観光交流物産協会		
関係団体	宮城大学小沢研究室、合同会社マトイクリエイティブ、一般社団法人トレイルブレイズハイキング研究所、ふくしま浜街道トレイルアソシエーション		
担当者	業務主任:柳田真澄 業務補佐:早坂瑞穂		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b></p> <p>令和2年度より福島県新地町～いわき市までの13市町村で構成する協議体「うつくしま浜街道観光推進会議」が中心となり、福島県浜街道地域にロングトレイル「ふくしま浜街道トレイル」(FCT)を敷設する事業が開始された。令和5年9月30日(土)に同トレイルは海岸沿岸の一部が開通。MCTの南端に続くトレイルになることから、みちのくトレイルクラブとして同トレイルの敷設開通に協力した。令和7年度は維持管理を担う「NPO法人ふくしま浜街道トレイルアソシエーション」(FCTA)への協力を行った。</p> <p><b>【目的】</b></p> <p>MCTは東日本大震災の環境省の復興事業の一つとして進められた事業であり、このトレイルを維持していくために「みちのく潮風トレイル憲章」が定められている。憲章の中には「震災をいつまでも語り継ぐための記憶の道とします。」という一文が記されている。東日本大震災は地震・津波・原子力災害が引き起こされた複合災害であるが、みちのく潮風トレイルは福島県相馬市がターミナスとなっていることから、原子力災害について歩きながら感じることはない。</p> <p>ふくしま浜街道トレイル(旧称:うつくしま浜街道トレイル(仮))が開通することで、2つのトレイルが東日本大震災を語り継ぐための道となること、そして福島県浜通り地域にハイカーが訪れるきっかけとなることを目的に事業に取り組んでいる。</p> <p><b>【実施内容】</b></p> <p>① 定例担当者会議</p> <p>第1回令和7年7月3日(木)、第2回令和8年2月26日(木)に実施。福島県11市町村、うつくしま浜街道観光推進会議事務局いわき市、環境省東北地方環境事務所、環境省自然環境局、福島県自然保護課、福島県観光物産交流協会、東日本旅客鉄道(株)水戸支社、八戸十和田トレイル運営事務局、(一社)トレイルブレイズハイキング研究所、NPO法人ふくしま浜街道トレイルアソシエーション(FCTA)、NPO法人みちのくトレイルクラブ(MTC)が参加。第1回では令和2年度から令和6年度までの事業報告、フットパスとロングトレイルハイキングについての説明を行った。ふくしま浜街道トレイル運営計画(案)、ふくしま浜街道トレイル憲章(案)、パンフレット増刷、情報発信スペースへの協力、道標、トレイルテープ設置について協議した。</p>			

第2回では、令和7年度の取組概要及びこれまでの経緯が共有されるとともに、管理運営の詳細やプロモーションの進捗について報告が行われた。あわせて、各自治体から地域の取組や課題が共有され、ルート変更やイベント、広域連携の推進について協議が行われた。さらに、道標管理や住民周知等を含む持続可能な協働体制の構築や、他事業との連携強化、次年度以降の運営体制の方向性について確認した。

本会議において構成員の決議を経て、ふくしま浜街道トレイルの運営計画が策定された。

② トレイル関連情報発信

自治体担当者及びハイカーからの情報提供に基づき対応し情報発信を行った。問い合わせについてはメールでは6件、電話では2件あり対応。

③ トレイルの整備

FCT 全線を歩き、通行止め区間の確認や整備が必要な箇所の現状確認を行った。

また、いわき市勿来及び檜葉町について草刈り整備を実施した。

道標トレイルテープを作成し、檜葉町内に16箇所設置した。

④ トレイルの利用促進

SNSによる開催予定のイベント情報の発信の他、ルートの最新情報(通行止め箇所、通行に注意を要する区間等)については、Facebook、Instagram、Google マップを活用し、ハイカーに対して周知を行った。また、イベントブースへの出展も積極的に実施した。

⑤ イベントの開催

令和7年10月4日(土)にハイキングイベント開催(小高駅～道の駅なみえ)29名参加。令和7年9月30日(火)に発売したハイキングパスポートを活用し、地域住民との交流を図りながらふくしま浜街道トレイルを歩くことを目的として実施した。スタンプの押印を通じて地域との交流が図られ、参加者からは「ふくしま浜街道トレイルを完歩したい」「沿道に魅力的な場所が多く、他の区間も訪れたい」「ハイキングパスポートのスタンプを集めたい」といった意欲的な声が聞かれ、継続的な来訪意向の醸成が確認された。

⑥ トレイル憲章のリライト

昨年度から各構成員と協議を重ねてきた憲章の素案をもとに、コピーライターの江副氏にリライトを依頼した。3度の改稿を経て7月に最終稿を完成させた。

イベントの様子(1)



イベントの様子(2)



イベントの様子(3)



イベントの様子(4)



考察、及び今後の展開

ふくしま浜街道トレイルは令和5年9月30日(土)に海岸沿岸の一部を開通。内陸側のルート開通に向けて事業が進められている。来年度はいわき市より、令和8年度よりFCTAへの直接委託に移行する案が提示され、来年度は運営・情報発信の主体はNPO法人ふくしま浜街道トレイルアソシエーション(FCTA)に引き継がれる予定だが、ふくしま浜街道トレイルはMCTと接続することから今後も連携して情報発信と歩ける状態の維持管理に協力していく。

事業種別	(1)-③トレイルや周辺の自然環境を活用した企画・実施事業	事業番号	(1)-③-4
事業名	八戸十和田トレイル		
業務名	連携事業		
期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
委託元	-		
関係団体	東北地方環境事務所、モディ株式会社		
担当者	業務主任:相澤久美 業務補佐:柳田真澄		
実施内容			
<p><b>【事業概要・目的】</b></p> <p>青森県の2市2町(八戸市、南部町、五戸町、十和田市)をまたぐ「八戸十和田トレイル」と「みちのく潮風トレイル」の連携を図り、双方の魅力向上および、より広域的な認知拡大に努める。加えて、みちのく潮風トレイルの南側から接続する「ふくしま浜街道トレイル」を含めた東北3トレイルの広域連携を推進していく。歩く旅の文化醸成と誘客の基盤を構築することを目的とする。</p> <p><b>【実施内容】</b></p> <p>① 情報発信およびカウンター対応 名取トレイルセンター内において「八戸十和田トレイル」のパンフレットを配架。来館者への窓口対応と、電話やメールでの問い合わせ時に同トレイルの紹介・案内を積極的に行い、ハイカーへの認知拡大を図った。</p> <p>② 八戸十和田トレイル連絡会への参加 令和7年度計3回開催された「八戸十和田トレイル連絡会」にオブザーバーとして参加。「みちのく潮風トレイル」の管理運営における実績を共有したほか、東北3トレイルの全線踏破経験に基づくハイカー目線での具体的な知見で、ルートの利用促進や課題解決に向けた提案を行った。</p>			
考察、及び今後の展開			
<p>当法人として、東北3トレイルが広域的に連携することは、各トレイルの魅力向上および広域周遊の促進において高い効果があると考えている。実際に、みちのく潮風トレイルを歩き終えたハイカーが、次の目的地として他の2トレイルでのハイキングを開始する事例が数多く見られる。また、トレイル間の連携によって総延長(歩ける総距離)が伸びていくことは、特にロングトレイルを愛好する海外ハイカーにとって非常に強い訴求力(目的地としての魅力)となることから、当センターへ来館した外国人ハイカーへのヒアリングからも明らかになっている。</p> <p>今後も運営実績の共有と、ハイカー向けの情報提供の強化を実施し、関係団体との連携を深めていく。特に、ハイカーが3トレイルの情報収集をスムーズにできるよう、みちのくトレイルクラブ公式ホームページ内に連携トレイルの掲載を予定している。</p>			

事業種別	(1)-③ トレイルや周辺の自然環境を活用した企画・実施事業	事業番号	(1)-③-5
事業名 業務名	児童向け野外活動体験事業受託(①閑上公民館連携(講師派遣)、②名取市教育委員会事業連携(講師派遣)、③名取市受託事業)		
期間	① 令和7年7月12日 ② 令和7年7月11日 ③ 令和7年10月13日		
委託元	① 閑上公民館 ② 名取市教育部生涯学習課 ③ 名取市生活経済部環境共創課		
関係団体	① 閑上公民館 ② 名取市教育委員会、名取市教育部生涯学習課 ③ 名取市生活経済部環境共創課、宮城県キャンプ協会		
担当者	業務主任:①、②、③ 晴山功 業務補佐:①、②、③ 早坂瑞穂		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b> 閑上公民館、名取市教育委員会からの講師派遣依頼、および名取市からの受託事業で、名取市に在住または通勤通学する親子等を対象に野外活動に必要なスキルを習得するため、薪割、火起こし、竹筒炊飯などの野外活動体験会を開催した。閑上公民館連携では地元のボランティアの皆さまにご協力を頂き、名取市受託事業については協力団体として宮城県キャンプ協会との連携を行った。</p> <p><b>【目的】</b> 自然の中で活動する機会が少なくなっている児童に対して、野外活動体験を通じて健やかな成長を促し、試行錯誤することで主体性や問題解決能力を養う機会を提供することを目的とした。</p> <p><b>【実施内容】</b></p> <p>① 閑上公民館連携 野外活動体験会への指導者派遣 開催場所: 閑上公民館 内容: 薪割・火起こし体験、竹筒炊飯 参加者: 8組 児童8名、大人9名</p> <p>② 名取市教育委員会 名取市・上山市の児童相互交流会への野外活動指導者派遣 開催場所: 名取トレイルセンター野営場 内容: 薪割 参加者: 児童 48名</p> <p>③ 名取市受託事業 野外活動体験会開催 開催場所: 名取トレイルセンター野営場 内容: 薪割・火起こし体験 参加者: 19組 児童 26名、大人 24名</p>			

①-1竹筒炊飯



①-2竹筒炊飯



③-1薪割・火起こし体験





③-2薪割・火起こし体験





考察、及び今後の展開

児童だけではなく、親も一緒になって同じ体験を行うことで、より多くの親子のコミュニケーションを図る場となった。大自然の中に身を置く事だけが自然体験なのではなく、身近にある沢山の自然を活用し、向き合うための知識、スキルを習得してもらうことを今後も行っていく。

事業種別	(1)-③ トレイルや周辺の自然環境を活用した企画・実施事業	事業番号	(1)-③-6
事業名 業務名	名取市五社山周辺の自然散策路検討会参加		
期間	令和8年3月 19 日		
委託元	-		
関係団体	名取市商工観光課		
担当者	業務主任:相澤久美 業務補佐:晴山功		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b>  名取市で検討している市内丘陵部の新たなウォーキングコース造成検討会への参加。  川内沢ダム・市街地の歴史的スポット・熊野那智神社・樽水ダム周辺・五社山を周遊し、名取市の自然の魅力、文化・歴史を体験する複数のコース案が検討されており、おおよそ全行程20km、ショート 12km となっている。なお、ウォーキングコースは、宮城オルレ認定を目指している。</p> <p><b>【目的】</b>  職員が有識者としてグループディスカッションに参加し、ウォーキングコース造成についてコース自体と利用者の両面から、安全性、利便性、持続可能性などの観点からコメントを延べた。ハイキング、サイクリング等のアクティビティに力を入れている名取市への協力、支援を目的としている。</p> <p><b>【実施内容】</b>  参加者:名取市山田市長、名取市内の高校生、大学生を含む市民約20名  内容:アクセスのし易さ、難易度、時間、立ち寄り・休憩ポイント・飲食店など、来訪者のみならず市民からもより親しみやすいコースになる様に様々な意見が交わされた。その意見を元に事務局(名取市)がコース案の見直しを行い、次回の検討会に再提出される予定。</p>			
<p>考察、及び今後の展開</p> <p>当検討会は宮城オルレ認定に向けて今後も定期的に関催される。名取市では、宮城オルレ認定だけではなく、宮城県自然環境保全地域に指定されている五社山周辺の散策路の整備事業等、丘陵部の利活用を進める事業が複数計画されている。より多くの市民に歩く文化を発信し、同じく県自然環境保全地域である仙台湾海浜を通るみちのく潮風トレイルの活用も含め「人力で旅する文化を発信する街・名取」に寄与していきたい。</p>			

事業種別	(1)-③トレイルや周辺の自然環境を活用した企画・実施事業	事業番号	(1)-③-7
事業名 業務名	名取市岩手県自然体験会 受託事業		
期間	令和7年7月 25 日～令和7年7月 26 日		
委託元	名取市		
関係団体	環境省大船渡管理官事務所、碁石海岸インフォメーションセンター		
担当者	業務主任:相澤久美 業務補佐:坂本麻由子		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b>  名取市が実施する自然体験会事業に協力し、児童を対象としたトレイル学習及び自然体験プログラムの運営支援を行った。みちのく潮風トレイルや地域自然資源を活用し、体験型学習の機会を提供した。</p> <p><b>【目的】</b>  自然体験活動を通じて、児童が地域の自然環境や文化、広田半島地域の魅力について理解を深めるとともに、野外活動におけるマナーや協調性を学ぶ機会を創出することを目的として実施した。</p> <p><b>【実施内容】</b>  1泊2日の行程で、トレイル学習会、トレイルルート見学、地域自然・歴史資源の見学等を実施した。学習会では、みちのく潮風トレイルや国立公園、広田半島の自然環境について説明を行い、現地では実際にトレイルを歩きながら自然観察や地域学習を実施した。</p>			
<p>キャンプファイヤーの様子</p> 		<p>トレイル体験の様子</p> 	
<p>考察、及び今後の展開</p> <p>体験型プログラムを通じて、児童が地域の自然や文化への理解を深めるとともに、歩く旅を通じた学びの効果を確認する機会となった。また、自然体験と地域学習を組み合わせることで、環境教育や郷土理解の推進につながる事が確認できた。今後も学校や自治体と連携し、継続的な自然体験・トレイル学習の機会創出を進めていく。</p>			

事業種別	1-③トレイルや周辺の自然環境を活用した企画・実施事業	事業番号	(1)-③-8
事業名 業務名	陸前高田市広田小学校 総合的学習 受託事業		
期間	令和7年5月1日～令和8年3月31日		
委託元	陸前高田市観光物産協会		
関係団体	陸前高田市立広田小学校、環境省大船渡管理官事務所		
担当者	業務主任:相澤久美 業務補佐:坂本麻由子		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b> 陸前高田市観光物産協会からの委託を受け、広田小学校6年生を対象に、「みちのく潮風トレイル」を活用した体験学習の運営支援を実施した。地域資源である自然・漁業・暮らしについて学びながら、児童が地域の魅力や価値を再認識する機会を創出した。</p> <p><b>【目的】</b> みちのく潮風トレイルや広田地域の自然・産業に触れる体験を通じて、児童の郷土理解を深めるとともに、自ら地域の魅力を発見し、将来的な地域への愛着や誇りの醸成につなげることを目的として実施した。</p> <p><b>【実施内容】</b> 広田小学校6年生 13 名を対象に、「地域の宝を知る」をテーマとした総合学習を実施した。漁業に関する学習では、地域産業や漁村文化について学ぶ機会を設け、あわせて広田崎周辺における自然体験を実施した。みちのく潮風トレイルを活用しながら、地域の自然環境や景観への理解を深めるプログラム運営を行った。</p>			
ハイカーとの交流会		トレイル体験の様子	
			
<p><b>考察、及び今後の展開</b></p> <p>地域で暮らしている児童にとっても、改めて自然や産業、景観の価値を見つめ直す機会となり、地域資源を学びの場として活用する有効性を確認することができた。今後も学校教育と連携しながら、みちのく潮風トレイルを活用した地域学習や体験型プログラムの展開を進め、地域への理解や愛着を育む取り組みにつなげていきたい。</p>			

事業種別	(1)-③トレイルや周辺の自然環境を活用した企画・実施事業	事業番号	(1)-③-9
事業名 業務名	金華山ファミツアー参加		
期間	令和7年8月 14 月～令和7年8月 15 日		
委託元	(一社)石巻圏観光推進機構		
関係団体	-		
担当者	業務主任:相澤久美 業務補佐:晴山功		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b>  石巻圏観光推進機構が宮城県東部地方振興事務所から受託した、令和7年度「持続可能な新しい石巻圏域の観光資源発掘事業業務」の事業として、みちのく潮風トレイル 金華山ファミツアーが開催された。みちのくトレイルクラブからは晴山が参加し、金華山を含む牡鹿半島エリアならではの魅力、歩き方を紹介した。</p> <p><b>【目的】</b>  主催者である石巻圏観光推進機構との連携を目的として参加。</p> <p><b>【実施内容】</b>  参加者：地元ガイド、旅客運送事業者、旅行者等 10名  実施日：2026年2月6日(金)  行程：仙台駅集合～(バス)～鮎川港～(海上タクシー)～金華山にてハイキング、黄金山神社参拝～(海上タクシー)～女川港～(バス)～まちなか交流館にてワークショップ、意見交換会～(バス)～仙台駅解散</p>			
<p>金華山ハイキングの様子</p> 		<p>女川町でのワークショップ</p> 	
<p><b>考察、及び今後の展開</b></p> <p>みちのく潮風トレイルの南部エリアである宮城県から福島県にかけては、北部、中部エリアに比べて訪れるハイカーがまだまだ少ない。地元事業者から各事業、企画への参加要請があった場合は可能な限り協力していきたい。</p>			



事業種別	(1)-③トレイルや周辺の自然環境を活用した企画・実施事業	事業番号	(1)-③-10
事業名 業務名	環境省「国立公園における感動体験創出事業」		
期間	令和7年10月18日～令和7年10月19日		
委託元	一般社団法人大船渡地域戦略		
関係団体	-		
担当者	業務主任:相澤久美 業務補佐:坂本麻由子、松川亮太		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b>          一般社団法人大船渡地域戦略が実施する環境省「国立公園における感動体験創出事業」において、三陸復興国立公園ならではの自然や歴史、文化に込められた価値を来訪者に伝える高付加価値な体験コンテンツの造成及び磨き上げに向け、みちのく潮風トレイルの活用やインタープリテーションの視点を踏まえた企画立案への助言、関係者との調整、現地調査、試行実施等を通じて、地域資源を活かした感動体験プログラムの創出を支援した。</p> <p><b>【目的】</b>          当法人は、みちのく潮風トレイル全線の管理運営及び利用促進を担う立場から、山林火災で被災した、綾里～赤崎ルート再開後の安全かつ円滑な利用環境の整備を支援するとともに、国内外への効果的な情報発信やツアー造成に関する専門的知見を提供し、地域と連携した持続可能なトレイル利用の推進を図ることを目的として本事業に参画した。</p> <p><b>【実施内容】</b></p> <p>① 現地調査 被災した綾里峠のトレイル調査・状況把握、回復に向けた検討・議論、他取り組みのサポート</p> <p>(1) 現地調査を実施、被害の概要を把握</p> <p>(2) CCC の招聘とトレイルメンテナンスミーティングの実施</p> <p>(3) CCC とのトレイルメンテナンス作業</p> <p>(4) 整備ツアーの実施</p> <p>※CCC との整備の詳細は(1)-①-3 で別途報告</p> <p>(5) 株式会社ボクスグラフによる上記活動の記録、及び火災の状況を広く伝えるための動画制作</p> <p>② 綾里ルートについての動画作成:ニュージーランドのハイカー兼インフルエンサー(動画クリエイター)である Elina Osborne 氏を招聘し、綾里ルートのハイキングと地域文化体験の様子について動画を制作・発信するとともに、SNS を活用した国内外への情報発信を行った。</p> <p>③ 台湾千里歩道協会メンバーを対象とした FAM ツアーの実施協力</p> <p>④ 「1,000 キロのみんなで集まる会」の運営支援</p> <p>関係自治体、協力者及び企業等との調整を行うとともに、分科会のファンリレーター及び全体監修を担当した。</p>			

考察、及び今後の展開

一般社団法人大船渡地域戦略との協働を通じて、トレイルを活用した地域振興や観光コンテンツ造成に関する相互理解を深め、今後の継続的な連携に向けた関係性を構築することができた。また、被災した綾里～赤崎ルートの開通に向けた基盤づくりや、国内外への情報発信、地域関係者との連携強化を進めることができた。

本事業で得られた成果を活かし、今後も地域と連携した持続可能なトレイル利用を推進していきたい。

事業種別	(1)-③トレイルや周辺の自然環境を活用した企画・実施事業	事業番号	(1)-③-11
事業名 業務名	東北運輸局「ガイド等を介した訪日外国人旅行者からの寄付金収受による地域の収益化モデル構築に向けた実証事業」		
期間	令和7年7月1日～令和8年2月28日		
委託元	東北運輸局		
関係団体	株式会社七十七リサーチ&コンサルティング、名取市		
担当者	業務主任:相澤久美 業務補佐:板橋真美		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b> 東北地域のトレイルなどを訪れる外国人旅行者に対し、ガイド等を通じて寄付を呼びかけ、その寄付金を自治体などへ還元する仕組みを実証的に検証する東北運輸局の事業。株式会社七十七リサーチ&amp;コンサルティングが受託し、寄付金の募集方法や受け取り・納付の流れを調査し、地域資源の保全や受入環境整備を支える持続可能な収益モデルの構築を目指すため、みちのく潮風トレイルの拠点施設の一つとして当法人が協力を依頼された。</p> <p><b>【目的】</b> インバウンド需要の地方分散と観光消費の拡大を図るとともに、トレイルの維持管理や環境保全など地域側が負担している費用を、訪日外国人旅行者からの寄付によって支える仕組みを確立し、持続可能で魅力ある観光地づくりにつなげることが目的。</p> <p><b>【実施内容】</b> 協力の一環として、①名取トレイルセンターを訪れた外国人ハイカーに行うアンケート調査の内容精査、②アンケート調査の実施協力を行った。また、TRAIL GATE 内に募金箱、現地決済型のふるさと納税サービス「peiふる」端末(収受金は名取市に寄付)を設置し、外国人ハイカーへの募金の呼びかけも協力した。</p>			
<p>考察、及び今後の展開</p> <p>東北運輸局が、みちのく潮風トレイルをはじめとする地域資源の保全や受入環境整備に要する費用について、持続可能な収益モデルの構築に向けた検討を行ってくれたことは、大変意義深いものであった。</p> <p>本調査では、外国人ハイカーの寄付に対する意識として、①自然環境やトレイルの維持管理への寄付意向が高いこと、②寄付金の使途の明確化が重要であること、③ガイドや地域の案内役が寄付への理解と共感を促す役割を果たすこと、④寄付が地域の新たな財源となり得ること、が明らかとなった。これらの知見を、今後のみちのく潮風トレイルの維持管理を進める上で生かしていきたい。</p>			

事業種別	(1)-③トレイルや周辺の自然環境を活用した企画・実施事業	事業番号	(1)-③-12
事業名 業務名	令和7年度桂島防災集団移転跡地活用したテント泊イベントの企画、運營業務		
期間	令和7年10月18日～令和7年10月19日		
委託元	塩竈市		
関係団体	-		
担当者	業務主任:板谷学 業務補佐:遠藤篤史		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b>  塩竈市市民生活部浦戸振興課から受託した、令和7年度桂島防災集団移転跡地活用したテント泊イベントの企画、運營業務として実施した。当日は板谷、遠藤が参加した。</p> <p><b>【目的】</b>  桂島の防災集団移転跡地の利活用として芝生化を進めている場所で、キャンプイベントを開催する。島民から要望の多いキャンプ施設の整備に向けたトライアル事業として位置づけ、課題などを調査することを目的とした。</p> <p><b>【実施内容】</b>  参加者：ハイカー13名、塩竈市より職員2名、みちのくトレイルクラブ2名  実施日：令和7年10月18日(土)～10月19日(日)  行程：10月18日：マリンゲート塩釜集合～桂島 テント設営、懇親会  10月19日：桂島～野々島～寒風沢島～マリンゲート塩釜解散</p>			
桂島に上陸した参加者のハイカー		防災集団移転跡地でテント泊	
			
<p><b>考察、及び今後の展開</b></p> <p>今回のトライアル事業実施により桂島でのテント泊が可能になると、ハイカーにとっても大変嬉しい。今回の事業でハイカーと交流する機会を持った塩竈市職員の方たちが、ハイカーに対してとても良い印象を持ってくれたことも収穫だった。今後もコミュニケーションを取りながら、テント泊が可能になるように働きかけ協力していきたい。</p>			

事業種別	(1)-③ トレイルや周辺の自然環境を活用した企画・実施事業	事業番号	(1)-③-13
事業名 業務名	名取トレイルセンター利用促進		
期間	令和7年7月 11 日～令和8年3月 31 日		
委託元	-		
関係団体	名取市、環境省東北地方環境事務所		
担当者	業務主任:板谷学 業務補佐:松川亮太、岡海咲		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b>  名取市、特定非営利活動法人みちのくトレイルクラブ及び環境省東北地方環境事務所の実務担当で構成された利用促進チームで、環境教育プログラム等提供、地域交流促進、名取トレイルセンター認知向上について検討する。</p> <p><b>【目的】</b>  みちのく潮風トレイル 名取トレイルセンター運営協議会事業基本計画書に位置づけられる事業3(環境教育プログラム等提供事業)及び事業4(地域交流促進事業)に基づき、地域住民を含むトレイルハイカー以外の利用者をセンターへ誘客し、ハイカーも含めた利用者数の増加を図る取り組みを検討することを目的とした。</p> <p><b>【実施内容】</b></p> <p>① 打ち合わせの実施</p> <p>(1)第1回:令和7年7月11日  利用促進チーム発足について、各団体からの利用促進に関わる意見交換</p> <p>(2)第2回:令和7年8月22日  各事業の目的について、全事業の優先度について、環境省出前講座について</p> <p>(3)第3回:令和7年12月15日  実施済み事業の報告、利用者数の推移と目標設定、令和8年度事業計画について</p> <p>(4)第4回:令和8年3月17日  令和8年度の役割分担について、4、5月実施予定事業について、広報なとりへの掲載について</p> <p>② 実施事業</p> <p>(1) 自然を身近に感じよう講座(クマ講座)  実施日時:令和7年9月26日(金)15:00-16:30  参加者数:24名  内容:行政に向けたクマに関する講座を実施。市町村職員(農林、環境関係部署)や教育関係の職員、公民館や児童センターの職員24名が参加した。</p> <p>(2) 自然をみぢかに感じよう講座  実施日時:令和7年10月19日(日)10:30-12:00</p>			

参加者数:9名

内容:一般向けのクマに関する講座を実施。

(3) 名取市図書館館内MCT企画展

実施日時:令和7年10月1日(水)~10月31日(金)

内容:環境省、名取市、トレイルクラブでそれぞれ展示物を持ち寄り、期間限定で展示。

来館者数:25,212名(10月)

(4) 名取市図書館館内MCT関連書籍紹介コーナー

実施日時:令和7年11月5日(水)11月27日(木)

来館者数:28,323名(11月)

内容:名取市図書館内にある関連書籍をメインに設置したほか、10月に実施した企画展の展示品の一部を展示した。デジタルサイネージからはMCTの動画を放映した。

(5) Leave No Trace (リープノートレース)の講習会

実施日時:2月24、25日

参加者数:10名

内容:自然環境への影響を最小限に抑えるための環境倫理と実践技術を学び、「Leave No Trace (LNT) レベル1 (L1) インストラクター」として活躍するための資格を取得

(6) トレイルセンター施設内チラシ作成

内容:貸室使用可能であることの認知向上のため、チラシを作成しトレイルセンター館内等で配布

(1)自然を身近に感じよう講座(クマ講座)



(3)名取市図書館内MCT企画展



(4)名取市図書館内 MCT 関連書籍紹介コーナー



(6)トレイルセンター施設内チラシ



#### 考察、及び今後の展開

本事業では、名取市、みちのくトレイルクラブ、環境省東北地方環境事務所が連携し、環境教育や地域交流、名取トレイルセンターの認知向上に向けた取り組みを実施した。講座や図書館展示等を通じて、トレイル利用者以外の地域住民にもみちのく潮風トレイルを知ってもらう機会を創出できた。また、行政職員や教育関係者向けの講座実施により、地域内での理解促進や連携強化にもつながった。

今後は、地域住民が継続的にセンターへ関わることができる仕組みづくりや、子ども向け・初心者向けプログラムの充実が必要である。また、図書館等の地域施設との連携や広報を継続することで、トレイルセンターを地域に開かれた拠点として認知向上につなげていくことが期待される。

事業種別	(1)-③ トレイルや周辺の自然環境を活用した企画・実施事業	事業番号	(1)-③-14
事業名 業務名	「Leave No Trace レベル 1 インストラクター資格取得コース」開催		
期間	令和8年2月 24 月～令和8年2月 25 日		
委託元	-		
関係団体	くりこま高原自然学校		
担当者	業務主任:晴山功 業務補佐:松川亮太		

実施内容

【事業概要】

認定 NPO 法人みちのくトレイルクラブが主催する「Leave No Trace (LNT) レベル1インストラクター資格取得コース」である。令和8年2月 24 日からの 2 日間、みちのく潮風トレイル名取トレイルセンターにおいて、定員 12 名程度のアウトドアガイドやトレイル管理者、教育関係者等を対象に開催された。参加者全員修了し、LNTJ への登録を経て資格を取得した。

【目的】

自然環境への影響を最小限に抑える環境倫理「LNT の7つの原則」を深く理解し、野外での実践的スキルとワークショップ指導法を習得することを目指す。コース修了後に、LNT の考え方を他者へ正しく伝えることができるレベル1インストラクターを養成し、みちのく潮風トレイルをはじめとする自然環境の保全と、持続可能なアウトドア活動の普及に寄与することを目的とする。

【実施内容】

16 時間以上のカリキュラムのうち 10 時間以上を野外実習に充て、実践的な指導者養成プログラムが展開された。1日目は LNT の歴史や理念、7原則の座学に加え、指導方法 (SPEC) の学習と模擬ワークショップの準備が行われた。2日目は、参加者が主体となる7原則に関する模擬ワークショップ (ティーチング) の実施、相互フィードバック、スキル実践、および資格登録手続きが実施された。



#### 考察、及び今後の展開

座学に留まらず、参加者自身が模擬ワークショップを実践しフィードバックを得る形式は、指導者としての即戦力育成に極めて有効であった。今後は、本コースの修了生が各地域や教育現場でLNTの普及活動を自立的に展開することが期待される。みちのくトレイルクラブとしても、これら指導者層との連携を強化し、トレイル全体の環境保全意識の向上とマナーの定着化を推進していく。



事業種別	(1)-④ トレイルや地域の歴史、自然、文化に関わる啓発及び情報発信事業	事業番号	(1)-④-1
事業名 業務名	みちのく潮風トレイル 副読本作成		
期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
委託元	-		
関係団体	一般社団法人トレイルブレイズハイキング研究所、株式会社ハイランドデザイン、株式会社フリックスタジオ		
担当者	業務主任:相澤久美 業務補佐:岡海咲		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b>  令和6年度に引き続き、みちのく潮風トレイル全線の文化・歴史・自然・人の営みを紹介する副読本の制作を進めた。誌面構成の精査、原稿執筆および関係者への執筆依頼、深堀りルートの設定、写真素材の収集・確認、レイアウト調整、校正作業等を行い、誌面完成に向けた編集作業を進めた。現在、令和8年8月の発売を目標に、最終調整を行っている。</p> <p><b>【目的】</b>  過去に製作した Hiking Map Book 及び Data Book により、歩き旅の計画が立てやすくなっている。トレイル沿線地域の様々な魅力や歩き方の一例を紹介したガイドブックを作成することで、ハイカーが地域の魅力を更に発見する一助とすることを目的とする。</p> <p><b>【実施内容】</b></p> <p>① 原稿執筆・執筆依頼  令和4年度に作成した台割をもとに、各章の原稿執筆および関係者への執筆依頼を行った。当法人による執筆に加え、みちのく潮風トレイルの開通に関わった方々や沿線自治体、地域で活動する団体等に協力いただき、多様な視点からトレイルの魅力を紹介できるよう原稿制作を進めた。原稿回収後は内容確認、事実確認、表現調整を行い、誌面掲載に向けた編集作業を行った。</p> <p>② 深堀りルートの設定・最終確認  環境省トレイルマップの一部の市町村では、トレイル本線を逸れて地域の魅力地点を巡る「寄り道ルート」が掲載されていた。寄り道ルートも本線と同じく地域の方のワークショップを経て作成されたものであるが、Hiking Map Book には視認性確保の観点から掲載を見送った経緯があった。副読本では寄り道ルートを「深堀りルート」として掲載するとともに、環境省トレイルマップに当該ルートがなかった市町村についても、市町村担当者に確認の上 29 市町村すべてに深堀りルートを設定した。令和7年度は令和6年度に作成した、深堀りルートの最終確認を行った。</p> <p>③ 写真素材の収集・整理  各地域の文化やなりわい、風景の魅力が伝わる写真を収集・整理した。掲載にあたり、撮影者や提供元の確認、クレジット表記の整理、使用許諾の確認を行った。</p>			

④ 誌面編集・校正

原稿・写真素材の集約後、誌面全体の構成調整、レイアウト確認、文章校正、デザイン修正等を行った。関係者との確認作業を重ねながら、発行に向けた進行管理を行っている。

考察、及び今後の展開

本書は、歩くための情報に加え、歩いた後に読んでいただき楽しめる一冊となることを目指している。今後は令和8年8月の発売に向けて最終校正・デザイン調整を進めるとともに、発行後は名取トレイルセンターや沿線地域での活用を図り、歩く体験の質の向上につなげていく。

事業種別	(1)-④ トレイルや地域の歴史、自然、文化に関わる啓発及び情報発信事業	事業番号	(1)-④-2
事業名 業務名	名取トレイルセンター館内イベント		
期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日		
委託元	-		
関係団体	みちのく潮風トレイル 名取トレイルセンター運営協議会		
担当者	業務主任:板谷学 業務補佐:全職員		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b> 名取トレイルセンター館内で各種イベントを開催した。</p> <p><b>【目的】</b> みちのく潮風トレイルやハイキング文化に馴染みが薄い方の最初のきっかけとして、みちのく潮風トレイルを既に歩いた方には共感やさらに深い繋がりを得てもらえるよう、名取トレイルセンターで毎年各種イベントを開催している。令和7年度はハイキングでのマナー啓発、安全対策を目的に、みちのく潮風トレイルについての勉強会、日頃のボディケアや不意の怪我に対する応急処置方法(ファーストエイド)講習会、みちのく潮風トレイルを体験するショートハイクの三部構成で実施した。</p> <p><b>【実施内容】</b> 「はじめてのみちのく潮風トレイル」講習会 開催日 令和7年3月28日(土)</p> <p>① 「みちのく潮風トレイルを歩こう」講習会 初心者向けに、みちのく潮風トレイルを歩く上で気を付けてほしいことなどを講習した</p> <p>② 「ファーストエイド、ボディケア初級編」講習会 専門の知識を有する講師による、怪我をしないための体づくりや長く歩くハイキング中に思わぬ怪我に見舞われた場合のテーピングなどの対処法について講座を行った。 講師:本間 一字氏(応援会員/メディック・ファーストエイド(MFA)インストラクター)</p> <p>③ 「みちのく潮風トレイルハイキングを体験 ショートハイク」 名取トレイルセンターから、かわまちてらす閑上までを歩いてトレイルを体験した。</p>			
<p>フリーズドライ食品を試食する参加者</p> 		<p>ショートハイク出発前の記念撮影</p> 	

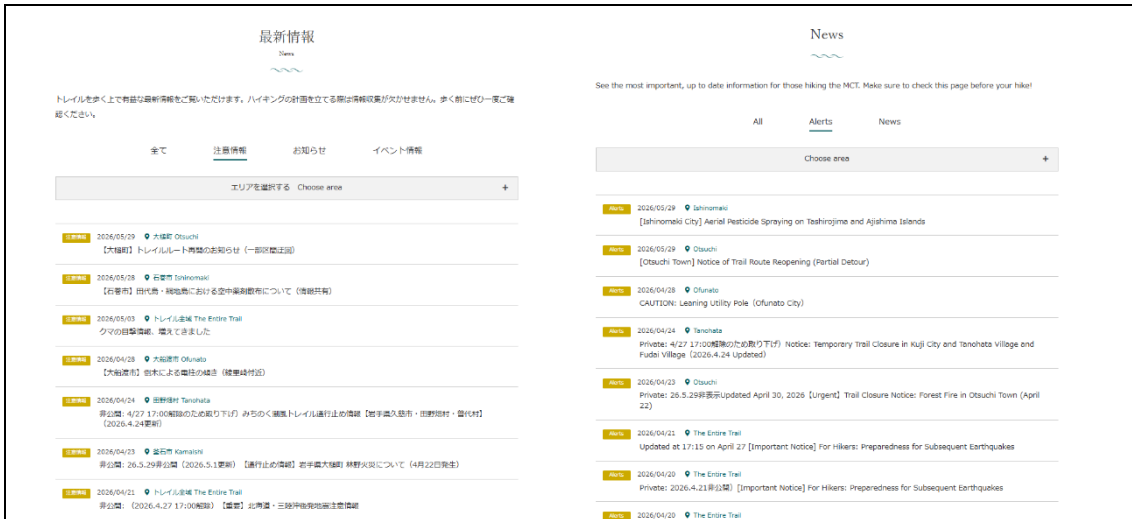
考察、及び今後の展開

参加者からは、「トレイルの創設の歴史や背景を聞いたのがよかった。またファーストエイドの講習もためになった」との意見が多かった。ハイカーの増加傾向の昨今、マナーの啓発、安心・安全に歩くための講習会を継続して開催することは必要だと考える。

来年度も体験型のイベントも取り入れながらハイキング文化の発信と、ハイキング時に役立つ知識、マナー啓発等を広める活動を行っていききたい。

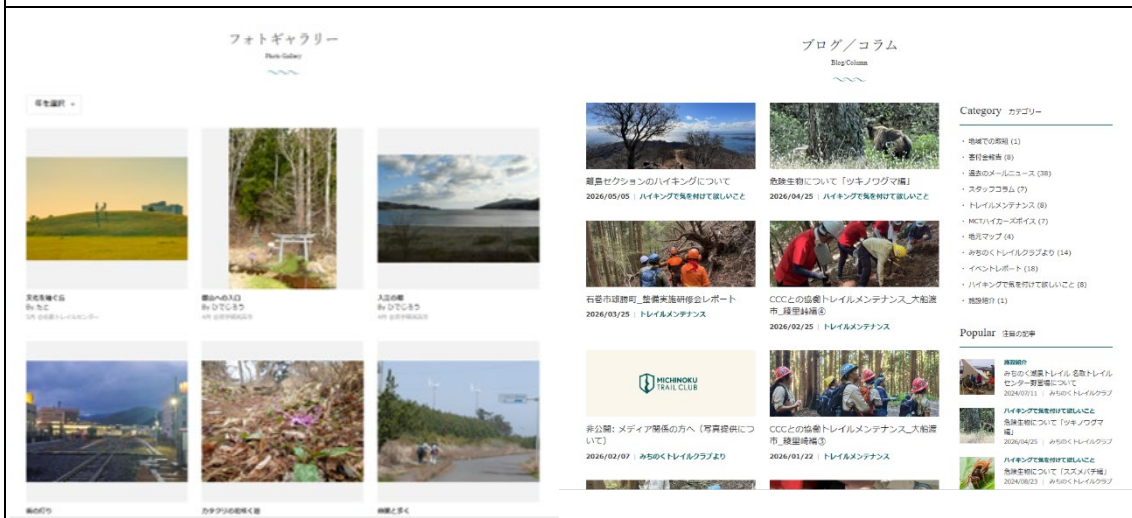
事業種別	(1)-④トレイルや地域の歴史、自然、文化に関わる啓発及び情報発信事業	事業番号	(1)-④-3
事業名 業務名	講師登壇・招へい事業、メディア掲載等		
期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
委託元	-		
関係団体	-		
担当者	業務主任:相澤久美 業務補佐:板橋真美、高橋百合子		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b> 各地で講師登壇の依頼受け入れ・招へい事業への参加を実施した。また、新聞、ラジオ、テレビ等への積極的なアプローチを行った。</p> <p><b>【目的】</b> 多くの方にみちのく潮風トレイルを知って歩きに来ていただき、トレイルの持続的運営につなげることを目的に各地で講演等を実施。また、雑誌、テレビやラジオなどメディアを通し MCT の情報を発信した。</p> <p><b>【実施内容】</b> みちのく潮風トレイルの周知・広報活動として、講演や取材対応(協力)を行った。 (※実施内容の詳細は、別添資料1をご覧ください。)</p>			
<p>考察、及び今後の展開</p> <p>令和7年度は昨年度比で多くのメディア露出が右肩上がりとなった。みちのく潮風トレイル関連のイベントを取り上げていただくほか、人物にフォーカスした連載など、みちのく潮風トレイルに関わる人や日常を掲載いただくことも増えた。海外メディアでは、整備活動の研修で訪れた先でインタビューされたものがテレビに取り上げられることがあった。ハイキングや野外体験、野外活動の趣向者への認知度がまだまだ低いため、様々なメディア、PR 活動を通して国内外とも認知度を高めていきたい。</p>			

事業種別	(1)-④ トレイルや地域の歴史、自然、文化に関する啓発及び情報発信事業	事業番号	(1)-④-4
事業名 業務名	ホームページ、フェイスブック、インスタグラムによる啓発及び情報発信		
期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
委託元	-		
関係団体	-		
担当者	業務主任:相澤久美 主担当:晴山功 更新:全職員		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b>  みちのく潮風トレイル運営計画の構成員等から寄せられる情報の公開(環境省業務)の他、各種イベント情報、ハイキングに関する啓発、文化情報発信等をホームページ及びフェイスブック、インスタグラムを通して行なった。ハイカーの旅をサポートしてくれる沿線施設(サポーターズ)やハイキングパスポートの情報掲載、フォトギャラリーのページではハイカーからの写真を募りフォトコンテストを行い、それらの写真を活用したオリジナルカレンダーの制作にも取り組んだ。その他、全線踏破挑戦者・踏破者登録、会員募集、寄付募集、野営場の情報発信などを実施した。ホームページについては大半の情報を英語ページでも情報発信している。</p> <p><b>【目的】</b>  みちのく潮風トレイルを歩く方々に必要な情報を提供し、安心安全に歩いていただくことを第一の目的としている。またフォトギャラリーや挑戦者登録など利用者が参加できるページも設け、更新頻度の高い双方向の運営を心がけている。皆で育てる道であることを発信する場とすること、みちのく潮風トレイル憲章を紹介し、みちのく潮風トレイルの存在意義についても伝える場としている。</p> <p><b>【実施内容】</b>  ①トレイルに通行に係る注意情報や臨時情報の発信  ②みちのくトレイルクラブが関わるイベントや商品の告知や報告  ③みちのく潮風トレイルを取り扱ったメディア等の紹介  ④名取トレイルセンターを訪れたハイカーの紹介  ⑤フォトギャラリーの運営  ⑥全線踏破挑戦者登録、全線踏破者登録の実施  ⑦会員の募集、寄付の募集  ⑧ハイキングで気をつけてほしいことをブログで紹介  ⑨各種不具合等の改修</p>			



HP:注意情報(日本語サイト)

HP:注意情報(英語サイト)



HP:フォトコンテスト

HP:ブログ/コラム



Facebook:みちのくトレイルクラブ

Instagram:みちのくトレイルクラブ



Facebook:みちのく潮風トレイル

Facebook:MCT ハイカーコミュニティ

**全線踏破者(2026/3/31 時点 256 名)昨年度比**

(1)居住地/踏破年度別人数

	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	合計
北海道	0	0	0	0	0	0	1	0
東北	0	9	17	23	28	19	27	123
青森県	0	0	1	3	2	1	3	10
岩手県	0	1	6	9	10	11	14	51
秋田県	0	1	0	0	1	0	1	3
宮城県	0	7	8	10	13	5	8	51
山形県	0	0	1	1	1	0	0	3
福島県	0	0	1	0	1	2	1	5
関東	10	3	10	9	7	17	25	81
中部	0	0	3	1	2	0	3	9
近畿	2	1	2	2	0	6	1	14
中国	0	1	0	0	1	0	2	4
四国	0	0	2	0	1	0	1	4
九州沖縄	1	0	1	0	1	0	1	4
海外	2	0	0	0	4	3	7	14
合計	15	14	35	35	44	45	68	256

(2)かかった日数/踏破年度別人数

	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	合計
～60日	2	6	8	6	11	8	24	63
～90日	4	1	3	1	0	2	1	12
～180日	1	1	1	2	0	1	0	6
～1年	1	2	10	2	3	4	3	25
～2年	0	3	3	12	5	9	9	41

～3年	0	0	1	4	10	9	4	28
～4年	2	0	3	2	3	1	7	18
～5年	5	0	3	1	7	8	9	33
～6年	0	1	2	2	0	0	3	8
～7年	0	0	0	0	2	2	3	7
～8年	0	0	0	1	2	0	1	4
～9年	0	0	0	2	1	0	0	3
～10年	0	0	0	0	0	1	2	3
10年超	0	0	0	0	0	0	1	1
不明	0	0	1	0	0	0	1	2
合計	15	14	35	35	44	45	68	256

(3) 歩き方/踏破年度別人数

	2019	2020	2021	2020	2023	2024	2025	合計
南に向かって	8	10	16	18	18	21	41	130
北に向かって	5	2	10	11	12	14	19	73
それ以外	2	2	9	6	14	10	8	51
合計	15	14	35	35	44	45	68	256

全線踏破挑戦者(2026/3/31 時点 408名)

(1) 居住地別人数

北海道	6
東北	221
青森県	23
岩手県	48
秋田県	9
宮城県	112
山形県	6
福島県	23
関東	133
中部	15
近畿	6
中国	2
四国	1
九州沖縄	2
海外	22
合計	408

(2) 歩き方別人数

南に向かって	161
北に向かって	158
それ以外のルート	77
未定	12
合計	408

考察、及び今後の展開

挑戦者数・踏破者数ともに右肩上がりが続いている。全線開通前から歩いていた方々の踏破が増え、初めて10年超で踏破された方をカウントした。歩き方は南向きが変わらず一番人気。各種SNSをフォロー、ハイカーコミュニティに参加する方々も増えている。8月には新HPへの移行を予定している。より各ページにアクセスしやすくなるよう努める。

事業種別	(1)-④トレイルや地域の歴史、自然、文化に関わる啓発及び情報発信事業	事業番号	(1)-④-5
事業名	読売新聞コラム「陸奥讃歩」		
期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
委託元	-		
関係団体	読売新聞		
担当者	業務主任:板橋真美 業務補佐:岡海咲、高橋百合子		

実施内容

【事業概要】

読売新聞東北総局のご協力により、朝刊(宮城・青森・岩手・福島県内版)にてコラム「陸奥讃歩」を隔週(第2・4水曜日)で連載していただいている。本業務では、執筆者の選定～依頼、そして新聞社との連絡調整を行った。

【目的】

ハイカーや地域の方々、管理運営に携わる方々に、みちのく潮風トレイルへの思いを綴っていただくことで、新聞やオンラインニュースを通じたトレイルの周知を図るとともに、その思いに共感する人々の輪を広げることを目的とする。

【実施内容】

令和7年度は、「私とみちのくトレイル」を共通テーマとして、ハイカーや地域関係者など 23 名の方に寄稿を依頼し、それぞれのみちのく潮風トレイルへの思いや体験を約 750 文字で綴っていただいた。寄稿者それぞれの視点から、歩く中で感じた地域の魅力や人とのつながり、トレイルへの思いが語られ、多様な角度からみちのく潮風トレイルの価値を発信する機会となった。

また、掲載後は執筆者および新聞社の了承を得たうえで、みちのく潮風トレイルの Facebook でも記事を紹介し、新聞読者以外への周知やオンラインでの情報発信にも取り組んだ。

掲載記事の一例

<p><b>陸奥 讃歩</b> 私とみちのくトレイル 潮風</p> <p>元岩手県自然保護課自然公園担当課長 岡野 治さん 75</p> <p>世界に誇る、1本の歩道</p>  <p>岩手県宮古市の麓を歩くと、とがさき(左)に向かうトレイルを歩く岡野さん(左端、2021年4月11日)</p>	<p><b>陸奥 讃歩</b> 私とみちのくトレイル 潮風</p> <p>映画監督 野沢 和之さん 71</p> <p>歩くことで感じる意志</p> 	<p><b>陸奥 讃歩</b> 私とみちのくトレイル 潮風</p> <p>動画配信する東京都のハイカー 大庭 朝子さん 64</p> <p>次の目標北から南へ</p> 
---	--	---

令和7年度の掲載記事一覧

No.	掲載日	肩書	氏名（敬称略）	タイトル
1	4月9日	元岩手県自然保護課自然公園担当課長	岡野 治	世界に誇る 1本の歩道
2	4月23日	ハイカー	佐藤 武徳	地図に導かれた出会い
3	5月14日	Hiker's Depot（東京都三鷹市）店主	土屋 智哉	風情と旅情 後世に
4	5月28日	NPO法人「体験村・たのはたネットワーク」理事長	楠田 拓郎	英語でガイド 機会増
5	6月11日	認定NPO法人みちのくトレイルクラブ 代表理事	佐々木 豊志	沿線の記憶 今も鮮明に
6	6月25日	岩手県沿岸広域振興局宮古地域振興センター	紀田 友枝	変わりゆく風景 心躍る
7	7月9日	宇都宮のハイカー	田所 学	出会う楽しさ 続く縁
8	7月23日	歩き旅愛好者	土合 充夫	道端の碑に地域の魂
9	8月13日	気仙沼市観光協会唐桑支部	熊谷 羊	歩くたび ひらく五感
10	8月27日	浄土ヶ浜ビジターセンター運営協議会 事務局長	佐々木 洋介	道づくり 歩いた証し
11	9月10日	三重県のハイカー	宮地 良治	大切な仲間に出会えた
12	9月26日	青森県六戸町のハイカー	澤口 俊博	亡き妻との約束果たす
13	10月8日	映画監督	野澤 和之	歩くことで感じる意思
14	10月22日	岩手県宮古市のスポーツ店店主	志賀 鉄太郎	全線踏破 記憶鮮明に
15	11月12日	動画配信する東京都のハイカー	大庭 朝子	次の目標 北から南へ
16	11月26日	東京都の週末ハイカー	浦田 卓	人とのつながり 魅力
17	12月10日	みちのく潮風トレイル 名取トレイルセンター センター長	板谷 学	地域がハイカー育てる
18	1月14日	大船渡温泉支配人・三陸ツアーズ社長	志田 緒隆	交流が生む郷土の誇り
19	1月28日	東北地方環境事務所国立公園課長	櫻庭 佑輔	集落文化 未来の糸口に
20	2月11日	グループわらじ 会長	神垣 友夫	震災教訓 1000年後まで
21	2月25日	碓石海岸インフォメーションセンター スタッフ	村上 航	歴史、文化 歩き感じる
22	3月11日	一般社団法人タンコーカナリ代表	石井 宏之	随所に震災からの学び
23	3月25日	ロングトレイルハイカー cafe & bar peg. 店主	清田 勝	昔の自分に再会する旅

考察、及び今後の展開

「陸奥讃歩」は、みちのく潮風トレイルに関わる人々の思いや体験を発信することで、歩くことを通じた地域とのつながりや、トレイルの価値を伝える取り組みである。ハイカーだけでなく、地域に暮らす方々や運営に関わる方々など、さまざまな立場からの思いを紹介できる点にも大きな意味があると感じる。また令和8年3月には、読売新聞が東日本大震災関連の特集（全国版）において、「陸奥讃歩」の執筆者数名に取材を行い、「みちのく潮風トレイル」を中心に据えた記事を掲載して下さった。みちのく潮風トレイルの背景にある地域の記憶や人々の思いを、より深く伝える機会につながったと感じている。

今後も、記事の蓄積やオンライン、SNSとの連携を通じて、さらに多くの方にみちのく潮風トレイルを知っていただくことで、実際にトレイルを歩き、地域との関わりを持つ人を増やしていきたい。

事業種別	(1)-④トレイルや地域の歴史、自然、文化に関わる啓発及び情報発信事業	事業番号	(1)-④-6
事業名 業務名	第12回 MON ミーティング		
期間	令和7年8月14日～令和7年8月15日		
委託元	-		
関係団体	みやぎ野外教育ネットワーク		
担当者	業務主任:晴山功 業務補佐:岡海咲		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b>  MON ミーティングは、当法人が令和4年から所属している「みやぎ野外教育ネットワーク(通称: MON)」で毎年開催しているイベントである。MON は宮城県内の産学官民9団体が所属しており、主に会員を対象に交流事業、指導者養成事業を行い野外教育・活動者の質を向上させ維持することを目的としている。今回は栗原市の幼少年キャンプ研究会花山キャンプ場に於いて、「里山の暮らしを生かした教育:野外文化教育を理解し、野外教育を再考する」をテーマに、それぞれの団体による分科会とメイントークセッションが行われた。</p> <p><b>【目的】</b>  野外教育に関わる専門家、指導者と、安全、環境保全、教育、普及活動などの側面から情報交換を行うことで活動の視野を広めること、また、日頃の活動において協力関係を築くことを木庭としている。</p> <p><b>【実施内容】</b>  参加者数 宮城県の野外教育、保育教育に関わる事業者、団体加盟の学生等 40名  1日目:各団体によるワークショップと全体会  2日目:各団体によるワークショップ</p>			
<p>考察、及び今後の展開</p> <p>宮城の野外教育・野外活動分野の第一人者がそれぞれの専門分野においてワークショップが行われることは少ないので、このような機会に来年度以降も若手の職員にも参加してもらい、知識・技術の向上と他団体との交流を図っていきたい。</p>			

事業種別	(1)-④トレイルや地域の歴史、自然、文化に関する啓発及び情報発信事業	事業番号	(1)-④-7
事業名 業務名	石巻環境フェア 2025 への出展		
期間	令和7年 11 月 16 日		
委託元	-		
関係団体	環境省石巻管理官事務所		
担当者	業務主任:相澤久美 業務補佐:岡海咲		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b> 宮城県石巻市のマルホンマキアートテラスで開催された「石巻環境フェア 2025」において、環境省石巻管理事務所と共同でブースを出展した。トレイルのルート概要や楽しみ方をパネル展示で紹介するとともに、パンフレット配布および来場者への個別説明を実施した。</p> <p><b>【目的】</b> 地域住民に対し、みちのく潮風トレイルの取組および三陸復興国立公園の意義を周知し、環境保全とロングトレイルの関係性への理解を深めることを目的として出展した。</p> <p><b>【実施内容】</b> パネル展示・資料配布 トレイル全線の概要や歩き方、沿線地域の魅力を紹介するパネルを展示するとともに、パンフレットや関連資料を配布した。来場者へ直接説明を行い、トレイルの特徴や楽しみ方について情報提供を行った。</p>			
<p>展示ブースの様子①</p> 		<p>展示ブースの様子②</p> 	
<p>考察、及び今後の展開</p> <p>親子連れの来場者が多く、「子どもと一緒に歩いてみたい」といった前向きな声が多かった。また、「近所を通っていることは知っていたが、どのような道なのか詳しくは分からなかった」という地域住民の声もあった。今後も地域内での普及啓発活動を継続し、トレイルの意義や楽しみ方を丁寧に伝えていきたい。</p>			

事業種別	(1)-④トレイルや地域の歴史、自然、文化に関わる 啓発及び情報発信事業	事業 番号	(1)-④-8
事業名 業務名	MCT & GEO シンポジウム		
期間	令和8年1月 31 日		
委託元	-		
関係団体	三陸ジオパーク推進協議会、みちのく潮風トレイル関係自治体協議会		
担当者	業務主任:相澤久美 業務補佐:晴山功、坂本麻由子		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b> 久慈市において、三陸ジオパーク推進協議会、みちのく潮風トレイル関係自治体協議会と連携し地元のインバウンド受入れ体制の改善等をテーマとし、基調講演、パネルディスカッションを行った。なお、開催にあたって日本航空、JR東日本の協賛を得た。</p> <p><b>【目的】</b> 自然景観、文化、食、芸能の魅力があふれる三陸地方において、みちのく潮風トレイルと三陸ジオパークを軸として受入れ体制の改善や多言語対応、地域経済への貢献を議論し今後の活用策を検討することを目的とした。</p> <p><b>【実施内容】</b></p> <p>① オープニングアトラクション：郷土芸能ステージ（夏井大梵天神楽（久慈市））</p> <p>② 基調講演 テーマ：世界から見た日本三陸、みちのく潮風トレイルと三陸ジオパークの魅力 講師：THREE GOATS（株） クインラン・フェリス 氏 （一社）トレイルブレイズハイキング研究所長谷川晋 氏</p> <p>③ 事例発表： 「三陸地域におけるインバウンド誘客の取組」 奥ジャパン（株） 白木智子 氏 「ジオパークとトレイルの活用と三陸地域における地域連携活動の取組」 NPO 法人体験村田野畑・田野畑ネットワーク 楠田拓郎 氏 「みちのく潮風トレイルの受入れ体制整備に向けた取組」 三陸DMOセンター 中嶋英俊 氏</p> <p>④ パネルディスカッション 「世界とつながる三陸～地域素材を活かした海外へのプロモーションと受入れ体制の整備」 モデレーター： 相澤久美、 三陸ジオパーク推進協議会 桜田功 氏 パネリスト： 基調講演および事例発表に登壇の皆さま</p>			

シンポジウム会場の様子①



シンポジウム会場の様子②



考察、及び今後の展開

今後も様々なテーマを取り上げ、海外から見た三陸地域の魅力について関係者や地域の方と共有し、三陸ジオパークとみちのく潮風トレイルの相互理解を深めることで地域資源の価値を再発見し活用策を検討していきたい。

事業種別	(1)-④トレイルや地域の歴史、自然、文化に関わる 啓発及び情報発信事業	事業 番号	(1)-④-9
事業名 業務名	第9回ジャパン・ツーリズム・アワード 「UN Tourism 特別賞」受賞		
期間	令和8年9月25日		
委託元	-		
関係団体	ツーリズム EXPO ジャパン実行委員会		
担当者	業務主任:相澤久美		

実施内容

【事業概要】

2025年8月28日、第9回ジャパン・ツーリズム・アワードにおいて、当法人が「UN Tourism 特別賞」を受賞した。また、同年9月25日にはツーリズム EXPO ジャパン 2025（愛知県国際展示場）において表彰式が行われた。

【目的】

ジャパン・ツーリズム・アワードは、国内外から優れた観光地域づくりや持続可能な観光の取組を表彰し、その先進事例を広く発信することにより、日本の観光産業及び観光地域の発展に寄与することを目的としている。

【実施内容】

行政、地域住民、事業者、民間団体及び国内外のハイカーなど、多様な主体と連携しながら、トレイルの維持管理、情報発信、利用促進及び地域との交流機会の創出に取り組んできた。また、歩く旅を通じて三陸沿岸の魅力を国内外に発信し、地域の自然・歴史・文化の継承と震災からの復興に寄与してきたことが認められた。

受賞後、東北の仲間たちと



表彰状



考察、及び今後の展開

東日本大震災からの復興を契機として誕生したみちのく潮風トレイルが、多様な主体の協働によって育まれてきた取組として国際的に評価されたことは、大変意義深いものであった。本受賞は、地域住民、行政、関係団体及び国内外のハイカーとともに歩んできた成果であり、今後も多くの仲間とともにトレイルを育みながら、みちのく潮風トレイルのさらなる発展に取り組んでいく。

事業種別	(1)-④トレイルや地域の歴史、自然、文化に関わる啓発及び情報発信事業	事業番号	(1)-④-10
事業名 業務名	2026 年度オリジナルカレンダー制作		
期間	令和8年3月 31 日		
委託元	-		
関係団体	-		
担当者	業務主任:相澤久美 業務補佐:晴山功、柳田真澄		

実施内容

【事業概要】

ホームページのフォトコンテストに応募された写真の中から厳選した作品を使い、年度（4月1日）始まりのオリジナルカレンダーを制作し、当法人会員、サテライトや4県29市町村の構成員などに広く配布した。カレンダーは2022年度から制作しており、2026年度の中綴じページには LEAVA NO TRACE の解説と、「数字で見る MCT」と題した、みちのく潮風トレイル沿線のランドマークや地形の情報を記した。

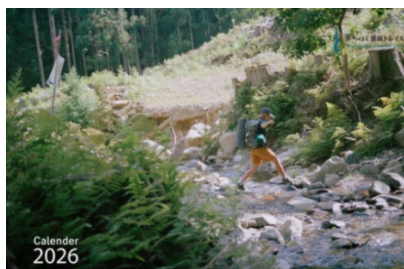
【目的】

単にカレンダーとして利用するだけではなく、みちのく潮風トレイルの情景を日常に届け、自宅にしながら三陸の海や森の空気を感じてもらい、次回のハイキングへの想いを馳せもらう。

【実施内容】

HP のフォトコンテストに応募された 112 点の中から、四季、地域毎に 12 点の作品を選定し壁掛け型の月めくり型のカレンダーを制作し、当法人会員だけでなく、みちのく潮風トレイル構成員やハイカーなどに広く配布した。

カレンダー表紙



中開き・LNT について



考察、及び今後の展開

カレンダーは日常的に目に触れる媒体として、みちのく潮風トレイルの風景や魅力を継続的に伝える有効な普及啓発ツールである。また、Leave No Trace の解説や「数字で見る MCT」を掲載することで、トレイルへの理解や関心を深める機会の創出につながるものと考えられる。さらに、カレンダーへの写真採用が応募者のモチベーション向上につながり、HP フォトコンテストへの応募促進や、コミュニティとのつながりの醸成が期待される。

(1)-⑤ トレイルに関わる調査・研究事業

本事業年度は実施なし。

(1)-⑥ トレイルに関わる人材育成・ガイド養成事業

本事業年度は実施なし。

事業種別	(1)-⑦ 上記目的を達するために必要な施設等の活用及び受託管理事業	事業番号	(1)-⑦-1
事業名 業務名	令和7年度みちのく潮風トレイル 名取トレイルセンター管理運営等業務／(1)センター管理業務、(2)ハイカー来館者等へのサービス提供事業		
期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
委託元	東北地方環境事務所		
関係団体	-		
担当者	業務主任:板谷学 業務補佐:板橋真美		

実施内容

【事業概要】

- ① 名取トレイルセンターの清掃および展示施設の点検管理を行う。
- ② 来館者およびハイカーへ各種サービスを提供する。

【目的】

- ① 施設の衛生環境を維持管理し、利用者が快適に過ごせる環境を整える。
- ② 名取トレイルセンターはハイカーや地域住民、観光客等が利用するため、それぞれの対象に向けた情報提供や館内の利用案内等を行う。

【実施内容】

① 清掃および点検管理

(1) 清掃業務

センターの利用環境を快適に維持するため、日常清掃と定期清掃を実施した。

(2) センターの点検等業務

展示施設の点検管理(日々の閉館時の施設の消灯や各部屋の施錠、見回り等も含む)を行った。また、風雨が強く自動ドアの隙間から館内への浸水があった際は環境省に報告を行った。

② 情報提供および利用案内

ハイカーに必要な情報をセンター窓口で情報提供し、センターの展示に記載・掲示、展示資料を作成した。



来館ハイカー写真展示コーナー



読売新聞「陸奥讃歩」展示

さらに、ウェブサイト等に日英併記で掲載しハイカーへの周知を図った。トレイル全般に対しての電話、メール、対面等による利用者からの問合せに対応した。

- ・ 年間来館者数:23,497 名(内、ハイカー数 2,393 名)。※表 1 参照
- ・ 問合せ件数:国内 電話 2,472 件、メール(フェイスブック含む)297 件。  
外国人 電話 16 件、メール(フェイスブック含む)106 件

主な問合せ対応は表2のとおり。外国人からの問合せについては表3に示す。

(表1) センター来館者数

年月	4	5	6	7	8	9	10	
来館者数	2019	1,755	3,862	2,298	2,644	2,058	1,753	1,166
	2020	406	399	962	1,132	1,344	1,258	1,847
	2021	0	790	1,575	1,093	907	534	1,396
	2022	1,960	1,939	1,318	1,401	1,315	1,541	2,276
	2023	1,433	1,790	1,169	1,317	1,593	1,743	2,180
	2024	2,451	2,212	3,334	1,873	2,055	1,535	2,098
	2025	2,327	2,884	1,474	1,438	2,282	1,951	2,927
内、ハイカー数	2019	11	124	190	63	105	118	50
	2020	32	20	82	140	191	181	210
	2021	0	48	90	78	53	69	102
	2022	244	101	244	93	70	85	189
	2023	366	174	122	78	41	79	180
	2024	730	217	469	104	133	169	175
	2025	1,040	796	177	162	111	171	197

年月	11	12	1	2	3	年度累計	前年度比	
来館者数	2019	1,613	1,041	1,014	1,023	1,132	21,359	—
	2020	1,994	784	846	1,016	1,138	13,126	61%
	2021	1,345	1,023	1,135	1,454	1,451	12,703	96%
	2022	1,745	1,180	1,241	1,190	1,385	18,491	145%
	2023	1,760	1,158	1,112	1,556	1,509	18,320	99%
	2024	1,443	1,001	1,057	1,169	1,794	22,022	120%
	2025	2,492	1,146	1,102	1,156	1,908	23,497	107%
内、ハイカー数	2019	77	91	119	96	82	1,126	—
	2020	168	138	105	150	187	1,604	142%
	2021	164	85	80	59	135	963	60%
	2022	170	70	86	96	177	1,625	168%
	2023	169	136	85	111	131	1,672	102%
	2024	154	119	110	135	162	2,677	160%
	2025	239	113	122	132	133	2,893	108%

(表2) 主な問い合わせ対応(窓口、電話メール)

問合せ内容	回答・対応
トレイル沿線の宿泊施設等について	宿泊施設、野営場については可能な限り回答した。
トレイルの歩き方について	計画の立て方や装備、服装、靴などについて回答した。ハイキング相談会(個別・集団)も要望があれば窓口にて都度行った。
ルートの距離	データブックに基づき回答した。
大船渡の火災に伴う通行止めについて	HPの注意情報を案内した。
館内施設貸出	利用規程に沿った内容で当日空きがあれば貸出手続きをした。
島嶼部セクションの渡船、歩き方について	HPのブログ「離島セクションの歩き方」をご案内と共にその都度ご案内をした。
トレイルセンター野営場	野営場の予約方法や料金等について回答。野営場特設HPを案内した。
Hiking Map Bookの販売	販売施設や通販での購入方法を案内した。

(表3) 外国人からの問い合わせ

問合せ内容	回答・対応
宿から宿への荷物搬送について	MCT上で荷物搬送サービスに取り組んでいる旅行会社(みちのくハイカーズ、インアウトバウンド仙台・松島)や、インアウト向けに荷物搬送込みのMCTツアー商品を企画・販売している旅行会社の問い合わせ窓口を案内した。
おすすめのセクションについて	トレイルセンターHP掲載の「新しい東北」ガイドブックのモデルコース及び外国人ハイカー向けの各種サイトやSNSを紹介した。
Hiking Map BookとDATA BOOKは海外発送可能か	TRAIL GATEのオンラインショップを案内し、海外からの注文にも対応した。
宿やキャンプ場の情報が知りたい	外国人ハイカー向け非公式ファンサイト”Michinoku Coastal Trail”のグーグルマップを参考にしよう案内した。
宿の予約について	業務提携している旅行会社「みちのくハイカーズ」「インアウトバウンド東北」を紹介した。

① 館内施設の利用案内

来館者に対し施設の利用案内を行う他、館内施設(講義室、会議室、実習室、シャワー)等の予約対応、貸室利用対応を行った。また、希望する貸室の利用者にはMCT及び名取トレイルセンターについてのレクチャー(概要説明)を行った。

(表4) 施設利用件数及びレクチャー実

・講義室の利用実績 (合計 66 件、1,895 人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	1	5	5	5	4	10	11	5	5	2	3	10	66
人数	25	145	128	196	208	322	344	115	103	28	50	231	1,895

・会議室の利用実績 (28 団体、328 人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	4	2	2	1	0	0	3	5	1	2	3	5	28
人数	62	40	15	9	0	0	25	72	13	13	26	53	328

・実習室の利用実績 (13 団体、139 人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	0	0	1	0	0	0	3	0	1	1	3	4	13
人数	0	0	18	0	0	0	11	0	6	15	30	59	139

施設利用者に対して、トレイルやその取組み等についてレクチャーをした。

・施設利用者へのレクチャー実績 (合計 32 団体、653 名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	0	0	3	3	2	4	5	5	4	0	2	4	32
人数	0	0	28	117	105	69	71	101	80	0	25	57	653

考察、及び今後の展開

令和7年度も来館者数、ハイカー数、問い合わせ件数ともに前年と比べ大幅に伸びている。海外メディアでの取り上げや歩いたハイカーの SNS の影響センターで、欧米豪中心に外国人ハイカーは引き続き増えている。国内外ともに、初歩的な問い合わせ(どこのセクションがお薦めかなど)が増えている、新しい層がみちのく潮風トレイルに興味を持つようになったことを感じる。施設の維持管理に関しては、グリーンメンバーの皆さんの存在がとても大きく、園庭の除草作業や窓清掃、年末の大掃除など職員では手が回らないところで助けていただく機会が多く、大変有難かった。9月より運営協議会メンバーによる「名取 TC 利用促進チーム」が活動開始し来館者増に繋がっている。今後も来館者に快適に過ごしていただくために、引き続き日々の清掃や点検など怠らずに行っていきたい。

事業種別	(1)-⑦ 上記目的を達するために必要な施設等の活用及び受託管理事業	事業番号	(1)-⑦-2
事業名 業務名	みちのく潮風トレイル 名取トレイルセンター運営協議会業務		
期間	令和7年4月1日～令和8年3月 31 日		
委託元	みちのく潮風トレイル 名取トレイルセンター運営協議会		
関係団体	-		
担当者	協議会副会長:佐々木豊志、業務主任(幹事長):相澤久美 センター長:板谷学、副センター長:板橋真美 業務は職員全員で実施		
実施内容			
<b>【事業概要】</b>			
みちのく潮風トレイル 名取トレイルセンター運営協議会の事務局として、みちのく潮風トレイル、及び名取トレイルセンターの管理運営に関する事業を実施した。			
① 4月には名取トレイルセンターにて三回目の「名取トレイルセンター TRAIL DAYS」を開催し、二日間でのべ約 1000 名を超える来館があり、東北はもとより、全国からみちのく潮風トレイルのファンが集まるイベントとなった。			
② 11 月には名取トレイルセンター運営協議会・山田会長(名取市長)、東岡監事(東北地方環境事務所長)、三陸復興国立公園管理官事務所・伊藤所長、佐々木副会長(みちのくトレイルクラブ代表理事)と宮古市、気仙沼市、南三陸町のルートを視察し、各首長への表敬訪問を行った。			
③ 地域交流促進事業のひとつである「数珠繋ぎハイキング」は、みちのく潮風トレイルを初心者でも気軽に体験していただけるように令和3年 10 月から開始したものだが、令和7年度も毎回定員に達し多くのキャンセル待ちが出るほど人気イベントとなっている。また、初心者向けに「はじめてのみちのく潮風トレイル」と題して、ハイキング計画の立て方や装備についての講義、ハイキング後のボディケアと万が一の怪我に対するファーストエイドの講義、実際のルートハイキングの3部構成の講習会を実施し、13 名の参加があった。			
<b>【目的】</b>			
協働する自治体、地域事業者、住民の方々のトレイルやハイキングに関する理解を促し協力を得ること、また多くのハイカーに来訪してもらい、地域の方々と交流を産み出し、東北沿岸の復興と更なる振興に資することを目的とし実施した。地域の方々のトレイルやハイキング、ハイカーに対する理解は、みちのく潮風トレイルを歩いてくれるハイカーが地域の方々と交流する中で深まっており、名取トレイルセンターではハイカーが安心安全にトレイルを歩くことができるよう必要な情報発信を収集、発信し、地域の方々とハイカーの交流がよりよく進むことを目的とし運営された。			

## 【実施内容】

事業1 みちのく潮風トレイルの管理運営に関する事業：事業(1)-②-1詳細記載

① 統括本部として、以下の事業を行った。

- (1) 路線の再設定支援、運営計画構成員との連絡調整、運営計画構成員からの情報収集、運営計画構成員への提供・指示、状態把握(一斉巡視等)の声かけ
- (2) 管理台帳の管理・更新・共有
- (3) 環境省直轄区間の維持管理業務
- (4) 整備ボランティアの募集と管理
- (5) 利用者情報の収集
- (6) 地域連絡会の開催支援
- (7) サテライト連絡会の開催
- (8) 旅行会社等への情報提供
- (9) イベント用具類の管理・貸出
- (10) 日本ロングトレイル協会など関係他団体との情報交換
- (11) 令和7年大船渡市林野火災に関わる路体状況調査と周辺状況の定点継続観察

② 東松島市から相馬市区間のサテライトとして、以下の事業を行った。

- (1) 各構成員との連絡調整、情報収集・提供、状態把握(一斉巡視等)の声掛け
- (2) 現地調査
- (3) 地域連絡会の開催

事業2 ハイカー、来館者等へのサービス提供事業：事業1-⑦-(1)に詳細記載

ハイカー、来館者等へのサービスとして以下の事業を行った。

- (1) 窓口・電話・メール問合せ対応
- (2) 館内案内、来館者へのレクチャー
- (3) 来館者への観光等情報の提供
- (4) 書籍・映像媒体の管理
- (5) 館内展示

事業3 環境教育プログラム等提供事業

交流人口の拡大、環境保全・自然保護への理解・参画を推進するため、以下の事業を行った。

- (1) 地域資源を活かした環境教育プログラム等の提供
- (2) センターや地域資源を活用したプログラムを実施する他団体の情報収集及び連携体制の構築

事業4 地域交流促進事業

周辺地域住民の地域交流を促進し、また、国内外からの来訪者と地域住民、来訪者同士の交流を促進するための事業として、以下の事業を行った。

- (1) 名取トレイルセンター TRAIL DAYS(2日間)、数珠繋ぎハイキング(年間9回実施)
- (2) センター周辺の施設等の情報発信
- (3) 館内施設の貸室対応

事業5 センター維持管理事業

センターを適切に管理運営するために、以下の事業を行った。

- (1) 館内及び敷地の清掃
- (2) 設備の点検
- (3) 開館時間の延長

事業6 その他、事業の理念・目的を達成するために必要な事業

- (1) 運営協議会会長のトレイルの視察及び宮古市、気仙沼市、南三陸町への表敬訪問
- (2) みちのく潮風トレイル関係自治体協議会参加(代表理事 佐々木と常務理事 相澤)

事業1:地域連絡会



事業1:サテライト連絡会



事業2: ハイキング相談会



事業3:清掃活動(名取市)



事業4:数珠繋ぎハイキング



事業4:名取トレイルセンター TRAIL DAYS



事業 4: 関上浜での植栽活動と観察会



事業 6: 宮古市、気仙沼市、南三陸町表敬訪問



考察、及び今後の展開

令和7年度は、トレイル、トレイルセンターとも利用者が増加するとともに、地域の関与の広がりが見られた一方、安全管理、ルート の 保 全、効 率 的 ・ 効 果 的 な 情 報 提 供 な ど、利 用 拡 大 に 伴 う 課 題 が 明 ら か と な っ た。今 後 も 関 係 者 と 連 携 し な が ら 持 続 的 な ト レ イ ル 運 営 に 取 り 組 ん で い く 必 要 が あ る。ま た、統 括 本 部 と し て の ト レ イ ル セ ン タ ー の 機 能 を 十 分 に 発 揮 し、セ ン タ ー の 管 理 運 営 と ト レ イ ル 全 線 の 運 営 の 両 立 を 推 進 す る。

事業種別	(1)-⑦-3 上記目的を達するために必要な施設等の活用及び受託管理業務	事業番号	(1)-⑦-3
事業名 業務名	野営場運営、野営場予約サイト運営 名取トレイルセンター野営場等の管理運営業務		
期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
委託元	東北地方環境事務所		
関係団体	-		
担当者	業務主任:相澤久美 主担当:晴山功		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b>  名取トレイルセンター野営場の利用者への対応及び、委託施設の維持管理、周辺施設や関係団体等と連携してサービス向上に努めた。</p> <p><b>【目的】</b>  当該施設は、みちのく潮風トレイルを歩くハイカーへのサービス提供だけでなく、オートキャンプやデイキャンプ等のレクリエーションの機会やサービスを提供することにより周辺地域住民をはじめとする人々が交流する場として管理運営されることを目的としている。</p> <p><b>【実施内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 利用者への対応 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 利用予約の受付及び調整</li> <li>(2) 施設利用料金の徴収</li> <li>(3) 施設利用方法の説明</li> <li>(4) 名取トレイルセンター、及び周辺観光施設の案内</li> <li>(5) ウェブサイトなどによる施設の広報</li> <li>(6) 年少者、高齢者、障がい者等へのサポート</li> <li>(7) 窓口対応、各種問い合わせへの対応</li> <li>(8) 要望、苦情、トラブル、緊急時等への対応</li> <li>(9) テント設営時のアドバイス</li> </ol> </li> <li>② 野営場施設の維持管理</li> <li>③ 野営場施設の点検及び修繕</li> <li>④ 水抜き作業(水道の凍結が想定される際)</li> <li>⑤ 芝刈り払いと除草</li> <li>⑥ 樹木点検</li> <li>⑦ 清掃ならびに廃棄物の回収及び破棄</li> <li>⑧ バイオトイレの点検及び清掃</li> <li>⑨ 備品管理</li> <li>⑩ 忘れ物の回収、保管、返却</li> </ol>			

#### 考察、及び今後の展開

名取トレイルセンター野営場は本格オープンして4年が経過し、みちのく潮風トレイルのハイカーの宿営地として、また、名取市や隣接する仙台市や県外からの利用者も多く季節を問わず多くの利用者が訪れている。特に令和7年度はオープン以降、最多の利用者数であった。理由としては、梅雨明けが早く初夏の利用者数が多かったこと、11月以降も朝晩の冷え込みが弱かったこと、山あいや市街地のキャンプ場のクマ出没影響により比較的安全な沿岸値の当野営場が利用されたことが上げられる。

利用者数が多かった事により、野営場敷地にあるバイオトイレが想定以上の利用量があり、微生物による分解が間に合わず、匂いがきついと苦情が多くあった。センターが開館している時間はセンター内のトイレの利用を受付時に案内したり、繁忙時には夜間、早朝に職員がシフト対応をしたりして館内トイレ利用時間を延長するなどの対応を行った。

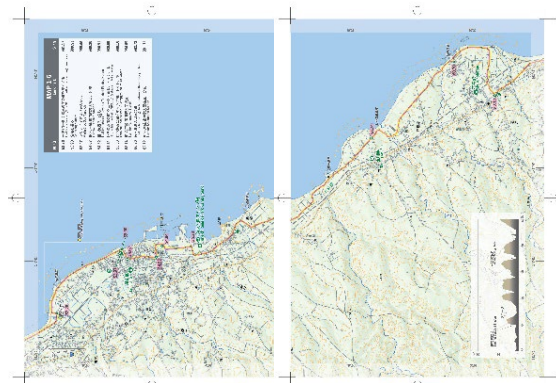
次年度も閑上公民館との連携、名取市受託事業などでキャンプ初心者向けプログラムを開催して当職員を講師として派遣し、当野営場の認知度向上と誘客を図る。

事業種別	(1)-⑦-4 上記目的を達するために必要な施設等の活用及び受託管理業務	事業番号	(1)-⑦-4
事業名 業務名	なとり環境フェスタ		
期間	令和7年 10 月 12 日		
委託元	名取市		
関係団体	-		
担当者	業務主任:相澤久美 主担当:晴山功		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b>  なとり環境フェスタが名取トレイルセンターを会場として開催された。当イベントは、名取市が市民、事業者、行政が一体となって環境問題への理解を深め、脱炭素化や身近な環境保全活動(3Rの推進など)に取り組むきっかけを提供することを目的とし、令和3年度より開催されている。</p> <p><b>【目的】</b>  当法人の所在地である名取市において、市内で活動するNPOや事務所を置く企業と連携し、市民の環境問題への関心を高め、また、野外活動の楽しさや野外活動時に気を付けるべき行動をLeave No Traceの7原則をもって伝えた。</p> <p><b>【実施内容】</b></p> <p>① 展示、ワークショップ</p> <p>(1) SDGsワークショップ</p> <p>(2) 増田川に生息する水生生物の展示</p> <p>(3) 名取市内に生息する絶滅危惧種に指定された生物の展示</p> <p>(4) LNTワークショップ(みちのくトレイルクラブ:松川)</p> <p>② 体験会</p> <p>(1) 野外活動体験会(みちのくトレイルクラブ:晴山、早坂)</p> <p>(2) 「もり」と「うみ」を考える寿司づくり体験会</p> <p>(3) スラックライン体験会</p> <p>(4) 釣りゲーム</p> <p>なお、当日、みちのく潮風トレイルオリジナルラッピングポストの除幕式も実施</p>			
<p>考察、及び今後の展開</p> <p>-----</p> <p>当イベントに参加することで、センターを訪れた市民の方がみちのく潮風トレイルを知っていただくきっかけにもなったため、来年度以降も名取トレイルセンターでの開催を要望していきたい。</p>			

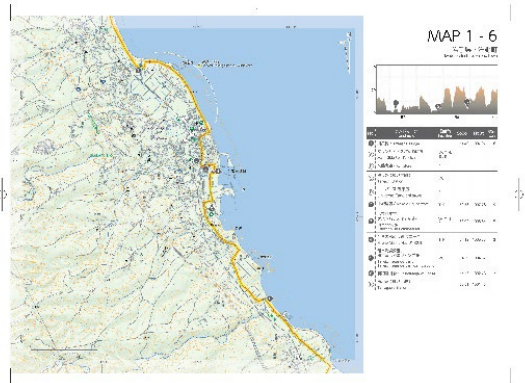
事業種別	(1)-⑦ 上記目的を達するために必要な施設等の活用及び受託管理事業	事業番号	(1)-⑦-5
事業名 業務名	中学生職場体験受入れ		
期間	令和7年 11 月 11 日～令和7年 11 月 12 日		
委託元	仙台市立袋原中学校		
関係団体	-		
担当者	業務主任:板橋真美 業務補佐:板谷学、晴山功、岡海咲		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b> 隣接する仙台市の中学校生徒の職場体験学習の受入れを行った。みちのく潮風トレイルや歩き旅の文化、魅力を知ってもらい、窓口業務で来館者への対応や施設整備の作業を行った。</p> <p><b>【目的】</b> 地域の一員である私たちが、教育機関と連携して教育に携わり、子供たちに、地域の魅力やそれを支える人の生き方(仕事)に触れることで、ふるさとに対する理解と愛着、地域の担い手としての自覚を持ってもらうことを目的とする。</p> <p><b>【実施内容】</b> 1日目:オリエンテーション(みちのく潮風トレイルと名取トレイルセンターについて、海外のロングトレイルについての説明) 窓口業務体験(接客、電話対応、館内整理・清掃) 2日目:清掃活動、野外活動体験</p>			
考察、及び今後の展開			
<p>袋原中学校の生徒による職場体験を受け入れた。生徒は、名取トレイルセンターの受付業務や施設管理補助、来館者対応などを体験し、地域資源やみちのく潮風トレイルに関する理解を深めていた様子であった。今回の職場体験を通じて、生徒が地域に関わる仕事や観光・自然に関する業務に興味を持つきっかけとなることが期待される。また、地域の学校との連携や次世代への普及啓発につながる有意義な機会となった。</p>			

事業種別	(1)-⑧ その他、第3条の目的を達成するために必要と認められる事業	事業番号	(1)-⑧-1
事業名 業務名	路線協議／データブックとハイキングマップブック改訂		
期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
委託元	-		
関係団体	東北地方環境事務所、一般社団法人トレイルブレイズハイキング研究所		
担当者	業務主任:柳田真澄 業務補佐:板谷学		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b> 令和7年5月に、データブックおよびハイキングマップブックの大幅な改訂を実施した。</p> <p><b>【目的】</b> 利用するハイカーの体験向上および安全対策。ならびに、道路工事等に伴うルート付け替えの影響を的確に反映した最新情報の提供を目的とする。</p> <p><b>【実施内容】</b> 最新情報の反映: ベースに使用している国土地理院の地図データを最新のものに更新した。これに伴うルート変更箇所については、環境省と協議の上で決定し、正確な情報を反映させた。</p> <p>① 視認性の向上 一般社団法人トレイルブレイズハイキング研究所と協議を重ね、ハイキングマップブックの表示方法(レイアウト)を変更した。従来の仕様では見開きに対する方角(向き)がページごとに異なっていたが、改訂後はすべて「北を上とする配置(ノースアップ)」に統一し、視認性を向上した。</p> <p>② 掲載情報の充実 データブック、ハイキングマップブックともに、ハイカーの利便性を高めるため、従来の掲載情報に加え、サポーターズ施設情報、周辺の飲食店、宿泊施設などの実用的な情報を大幅に追加した。</p> <p>③ 沿線地域事業者の広告掲載 地域活性化および当法人運営資金収益の強化を図り、沿線地域事業者へ広告掲載の募集を実施した。ハイキングマップブック No.01～10 各誌、データブックともに沿線地域事業者の広告を掲載している。広告はハイカーの利用を促すこと、沿線地域事業者のトレイルへの理解度を示すものとなり、ハイカーと地域との結びつきをより強いものにしている。</p>			

旧マップブック（見開き）



新マップブック（見開き）



### 考察、及び今後の展開

データブック、ハイキングマップブックは印刷物であることから、最新情報の掲載を常に行うことは現実的に不可能である。そのため最新情報の反映スパン、広告更新の頻度などの取り決めと実施について検討していく必要がある。その他、海外ハイカーなどに向けて、電子書籍での発行を検討している。

事業種別	(1)-⑧ その他、第3条の目的を達成するために必要と認められる事業	事業番号	(1)-⑧-2
事業名 業務名	TRAIL GATE／オリジナル商品の販売		
期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
委託元	－		
関係団体	株式会社ハイランドデザイン、合同会社マトイクリエイティブ、株式会社サンコー富田、株式会社ソーズカンパニー、玉屋 DESIGNS、他		
担当者	業務主任:柳田真澄 業務補佐:板谷学		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b>  みちのくトレイルクラブのオリジナルグッズを企画・製作し、名取トレイルセンター店頭および公式オンラインショップにて販売を行った。</p> <p><b>【目的】</b>  名取トレイルセンターを訪れるハイカーや地域住民、観光客に対し、オリジナルグッズを通じて「みちのく潮風トレイル」への関心を高めるきっかけを提供する。ハイカーにとってはトレイル上での目印やハイキングの記念品となり、地域住民や観光客にとっては親しみやすいお土産となることで、トレイルと人々との関係性を深める。また、日常的に身につけやすいグッズを展開することで、トレイル上に留まらず、街中におけるハイカー同士や地域住民との交流・コミュニティ創出を促すとともに、環境保全意識の啓発や安全対策に寄与することを目的とする。</p> <p><b>【実施内容】</b></p> <p>① オリジナル商品の企画・販売  令和7年度は新たに、オリジナルタンブラー（新色2種）、丸形ステッカー、マスキングテープを製作・販売した。日常使いしやすい企画・デザインを意識したことで、ハイカーから「トレイル上だけでなくトレイル外での交流のきっかけにもなった」との声が寄せられている。</p> <p><b>主な取扱商品ラインナップ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Tシャツ(グレー、ネイビー、海ブルー、砂浜イエロー等の各色)</li> <li>・ タンブラーボトル(新色2種)</li> <li>・ オリジナルキャップ、オリジナル手ぬぐい(紺色、水色)、オリジナルワッペン</li> <li>・ 缶バッジ、ピンバッジ、丸形ステッカー、マスキングテープ</li> <li>・ ハイキングパスポート、財布、オリジナルコーヒー</li> </ul> <p>② オンラインショップの運営および商品発送対応  公式オンラインショップにおいて、「Hiking MapBook」および「DataBook」に加え、一部商品に限定してオリジナルグッズの継続販売・発送業務を行った。日本国内のみならず、海外のハイカーからも多くの注文をいただいた。</p>			



タンブラー新色



丸形ステッカー



マスキングテープ

考察、及び今後の展開

令和7年度に実施した製品群の拡大(タンブラー新色、ステッカー、マスキングテープ等の導入)はハイカーの多様なニーズに応えるとともに、トレイル内外でのコミュニティ形成にも有効に機能した。今後、これまでの販売実績やハイカーからのフィードバックを踏まえ、みちのく潮風トレイルとハイカー、さらにはそれを取り巻く地域との関係性をさらに強固なものとする新たな展開を企画・検討していく。

事業種別	(1)-⑧ その他、第3条の目的を達成するために必要と認められる事業	事業番号	(1)-⑧-3																																							
事業名 業務名	メールニュースの発行																																									
期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日																																									
委託元	-																																									
関係団体	-																																									
担当者	業務主任:板谷 学 業務補佐:岡 海咲、高橋 百合子																																									
実施内容																																										
<p><b>【事業概要】</b>  認定NPO法人みちのくトレイルクラブの活動や名取トレイルセンター、みちのく潮風トレイルの話  題について対外的に発信するためのメールマガジンを運営</p> <p><b>【目的】</b>  メールマガジンの購読を通じて当法人の活動を知っていただき、共感、賛同していただける企業  や団体、個人を増やすことを目的としている。</p> <p><b>【実施内容】</b>  毎月1日(正月は年始の営業日)、計12回発行した。</p>																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>発行日</th> <th>購読者数</th> <th>開封率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2025.4.1</td> <td>680 人</td> <td>45.8%</td> </tr> <tr> <td>2025.5.1</td> <td>695 人</td> <td>41.6%</td> </tr> <tr> <td>2025.6.2</td> <td>698 人</td> <td>48.3%</td> </tr> <tr> <td>2025.7.2</td> <td>726 人</td> <td>43.6%</td> </tr> <tr> <td>2025.8.1</td> <td>756 人</td> <td>48.9%</td> </tr> <tr> <td>2025.9.1</td> <td>770 人</td> <td>49.5%</td> </tr> <tr> <td>2025.10.1</td> <td>774 人</td> <td>42.7%</td> </tr> <tr> <td>2025.11.1</td> <td>776 人</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>2025.12.1</td> <td>777 人</td> <td>39.6%</td> </tr> <tr> <td>2026.1.4</td> <td>781 人</td> <td>43.2%</td> </tr> <tr> <td>2026.2.1</td> <td>786 人</td> <td>43.5%</td> </tr> <tr> <td>2026.3.1</td> <td>786 人</td> <td>46%</td> </tr> </tbody> </table>				発行日	購読者数	開封率	2025.4.1	680 人	45.8%	2025.5.1	695 人	41.6%	2025.6.2	698 人	48.3%	2025.7.2	726 人	43.6%	2025.8.1	756 人	48.9%	2025.9.1	770 人	49.5%	2025.10.1	774 人	42.7%	2025.11.1	776 人	50%	2025.12.1	777 人	39.6%	2026.1.4	781 人	43.2%	2026.2.1	786 人	43.5%	2026.3.1	786 人	46%
発行日	購読者数	開封率																																								
2025.4.1	680 人	45.8%																																								
2025.5.1	695 人	41.6%																																								
2025.6.2	698 人	48.3%																																								
2025.7.2	726 人	43.6%																																								
2025.8.1	756 人	48.9%																																								
2025.9.1	770 人	49.5%																																								
2025.10.1	774 人	42.7%																																								
2025.11.1	776 人	50%																																								
2025.12.1	777 人	39.6%																																								
2026.1.4	781 人	43.2%																																								
2026.2.1	786 人	43.5%																																								
2026.3.1	786 人	46%																																								



4月1日、新しい年度が始まりました。日本にはお正月と4月の年度始まりと、2つのスタートがありますが、事業の区切りで考えると4月が本当のスタートです。(海外の読者の方もいらっしゃるので少し説明してみました)  
 令和7年度も、会員の皆さまをはじめ、地域の皆さま、ハイカーの皆さま、トレイルと一緒に運営する関係者の皆さまなど、本当に多くの方に支えていただき、みちのく潮風トレイル（以下：MCT）はまた少し成長できたのではないかと思います。  
 今年、令和8年度、MCTは7歳になります。2019年の全線開通の頃には想像もできなかったほど、多くの方に関わっていただいていることに、感謝の気持ちでいっぱいです。  
 私たち認定NPO法人みちのくトレイルクラブは、これまでMCT全線の運営を担いながら、多くの方にこの道を知っていただくためのプロモーションに力を入れてきました。今では、たいごんの仲間たちが一緒にプロモーションに取り組み、イベントも開

メールニュース①

トレイルから | ON THE TRAIL

火災後の大槌町ルート

4月に発生した大槌町の山林火災について、みちのく潮風トレイルを歩いたことがある方なら、「あの景色はどうなってしまったのだろうか」「トレイル周辺は大丈夫だろうか」と気にかけてくださっている方も多いのではないのでしょうか。

5月14日、現状把握を目的として、大槌町観光交流協会様にお声がけいただき、吉里吉里エリア周辺の巡視を行いました。安全管理上の観点から、車両による確認でした。

今回の火災では広範囲にわたり森林が焼損し、吉里吉里エリアのシーニックライン沿いを中心に、トレイルルート周辺にも焼損の跡が見られました。焦げたにおいが残る中、茶色く枯れた木々と、緑の葉を残した木々が入り混じる風景が広がっていました。一方で、自然や地域の営みは少しずつ前へ進み始めていることも感じられました。

5月29日13時に、大槌町より林野火災の鎮火が宣言され、みちのく潮風トレイル大槌町区間についても、一部迂回路を設定した上で通行を再開しています。通行の際は、現地の案内や最新の注意情報をご確認いただき、安全に十分配慮して歩いていただければと思います。

また、このたびの鎮火にあたっては、消防関係者、自衛隊をはじめ、多くの方々による献身的な消火活動と地域の皆さまのご尽力がありました。心より敬意と感謝を申し上げます。

森林の再生や地域の復旧・復興には、これから長い時間が必要になると考えます。みちのくトレイルクラブとしても、再び緑豊かな風景が育まれていく過程を見守りながら、地域の皆さまとともに、復旧・復興に向けて必要な支援や関わりができる機会があれば積極的に取り組んでいきたいと考えております。

自然の中を歩く私たちハイカーの皆さまも、改めて火の取り扱いには十分注意し、安全で責任ある行動を心がけていただければと思います。



メールニュース②

考察、及び今後の展開

購読者数は伸びており、海外のみちのく潮風トレイルファンの購読も増え、国内外の関心の高さが伺える。開封率は40%台と一般企業のメールマガジンの平均値より高い。令和8年度は、みちのく潮風トレイルのイメージを連想させるようなデザインの改善と各記事からHPやSNS等の各種広報発信媒体へ誘導する仕組みづくりを目標に、引き続き工夫をしながら取り組んでいく。

事業種別	(1)-⑧その他、第3条の目的を達成するために必要と認められる事業	事業番号	(1)-⑧-4
事業名 業務名	名取市内および周辺事業者との連携		
期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
委託元	-		
関係団体	名取市内および周辺事業者		
担当者	業務主任:相澤久美 主担当:晴山功		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b>  名取市内の事業者として、なとり夏まつりなどの地元事業や各委員会への参画、周辺事業者との連携事業を実施した。</p> <p><b>【目的】</b>  名取トレイルセンターでのみちのく潮風トレイルの情報発信のみならず、名取市内および周辺事業者との連携を行い、名取市事業者として閑上および周辺の魅力発信と地域一帯の活性化を図る。</p> <p><b>【実施内容】</b></p> <p>① 役員として参画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (一社)名取市観光物産協会 (令和7年6月に晴山が理事就任)</li> </ul> <p>② 委員として参画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 名取市環境審議会 (令和7年度より晴山が委員として参加)</li> <li>・ なとり夏まつり実行委員会 (令和5年度より晴山が委員として参加)</li> </ul> <p>③ 各事業の共同開催や職員派遣などの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 名取市教育委員会</li> <li>・ (NPO)名取市スポーツ協会</li> <li>・ ゆりりん愛護会</li> <li>・ (NPO)名取ハマボウフウの会</li> <li>・ 北の里浜 花のかけはしネットワーク</li> <li>・ 閑上公民館</li> <li>・ (一社)宮城県キャンプ協会</li> </ul>			
<p>考察、及び今後の展開</p> <p>名取市閑上地域のみならず三陸全体の魅力、みちのく潮風トレイルの情報を発信しつつ、今後も隣接するゆりあげ朝市、陣中などと連携し、閑上地区の集客と名取トレイルセンターへの集客に努める。</p>			

事業種別	(1)-⑧その他、第3条の目的を達成するために必要と認められる事業	事業番号	(1)-⑧-5
事業名	インターン受け入れ		
期間	令和7年8月5日～令和7年8月24日		
委託元	-		
関係団体	-		
担当者	業務主任:板橋真美 業務補佐:早坂瑞穂		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b> ドイツの大学生、エレック(Elek Pliha)を8月5日～24日までの約3週間、名取トレイルセンターのインターンとして受け入れた。</p> <p><b>【目的】</b> 海外の学生インターンを受け入れることで、職員の日常的に英語でコミュニケーションを取る機会を増やし、外国人への対応力向上につなげることを目的とした。また、学生には仕事を通じて感じたトレイルの魅力在海外へ発信してもらおうきっかけづくりを図った。</p> <p><b>【実施内容】</b> 館内展示制作(主に英語、ドイツ語への翻訳)、野営場の清掃と草刈り、センター館内の日常業務全般を広く担当。また、トレイルの整備活動にも参加してもらった。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>			
考察、及び今後の展開			
<p>今回エレック氏がインターンに来るきっかけとなったのは、令和5年度に相澤と板橋がルーマニアのトレイル Via Transilvanica を訪問した際、キャンパス(ハイカーが訪れる施設)でインターンをしていた大学生と知り合ったことであり、その学生の紹介により今回の受入れにつながった。ヨーロッパでは、EU 圏内でのインターン活動が比較的身近なものとなっており、トレイルや環境保全、地域づくりなどに関心を持つ学生たちが、国を越えて積極的に学びの場を求めていることが分かった。</p> <p>今回の受入れを通じて、みちのく潮風トレイルも海外の若い世代にとって学びや交流の場になり得る可能性を感じた。今後も、海外トレイルとのネットワークや人とのつながりを大切にしながら、みちのく潮風トレイルを通じた国際交流や情報発信につなげていく。</p>			

(2)-① 旅行業法に基づく旅行業

本事業年度は実施なし。

(2)-② 旅行業法に基づく旅行業者代理業

本事業年度は実施なし。

(2)-③ 宿泊施設及びガイドのあっせん事業

本事業年度は実施なし。

(2)-④ トレイルに関する旅行商品企画事業

本事業年度は実施なし。

事業種別	(2)-⑤ その他事業	事業 番号	(2)-⑤-1
事業名 業務名	TRAIL GATE／ハイキングギア・書籍等の販売		
期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
委託元	－		
関係団体	株式会社ハイランドデザイン、株式会社ソーズカンパニー、株式会社双進他		
担当者	業務主任:柳田真澄 業務補佐:板谷学		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b> みちのく潮風トレイル(MCT)を歩くハイカーを主なターゲット層とし、国内外の優れたハイキングギアや専門書籍を仕入れ、名取トレイルセンター店頭にて販売を行った。</p> <p><b>【目的】</b></p> <p>① 自主財源の確保と運営資金基盤の強化 物販事業の拡充により、当法人の持続可能な運営を支える安定的な自主財源を強化。</p> <p>② 安全・快適なハイキング文化の普及と環境保全の啓発 適切なギアや良質な書籍の販売を通じ、ハイカーがみちのく潮風トレイルを安全かつ快適に踏破できるようサポートする。同時に、ロングトレイルのカルチャー発信や、環境保全意識(Leave No Trace 等)の普及啓発を図る。</p> <p><b>【実施内容】</b> セレクトギアおよび書籍の仕入れ・販売 信頼性の高い代理店やメーカーから直接商品を仕入れ、ハイカーの細かなニーズに応えるラインナップを構築した。また、4月に開催されたイベント「TRAIL DAYS」での出展事業者等との繋がりを活かし、当年度は取扱製品の幅を広げた。</p> <p>① 主な取扱商品ラインナップ (1) ハイキングギア: バックパック、テント、ツェルト、タープ、ハイキングウェアなど (2) 安全対策・消耗品: エマージェンシーテープ、ヒル避けスプレーなど (3) 書籍: アウトドア関連の専門書、ロングトレイルを歩いたハイカーによる自費出版書籍等</p> <p>② 店頭での販売運営と相談対応 名取トレイルセンターの店頭カウンターでの案内・販売を実施した。これからみちのく潮風トレイルのハイキングに挑戦したいというハイカーに向けて、1時間ほど店頭での丁寧な接客対応を行うなどして、ハイカーの不安解消と安全対策のサポートを提供した。</p>			



店頭の様子(1)



店頭の様子(2)



店頭の様子(3)



店頭の様子(4)

考察、及び今後の展開

取扱商品点数が年々充実していることに加え、店頭での接客は単なる物販店ではなく、ハイカーの安全と信頼を支える「情報発信・相談拠点」として機能していることを示している。今後はメーカーや代理店とのネットワークを活かし、みちのく潮風トレイルのより広域的な普及活動や、ギアの使い方・選び方を伝える連携企画を検討していく。

事業種別	(2)-⑤その他事業	事業番号	(2)-⑤-2
事業名	自動販売機での飲料提供及び洗濯乾燥機の設置		
期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
委託元	-		
関係団体	(株)ダイドードリンコ、コカ・コーラボトラーズジャパン(株)		
担当者	業務主任:板谷学 業務補佐:板橋真美		

実施内容

【事業概要】

名取トレイルセンター館内及び敷地内に設置した自動販売機(館内1台、屋外2台、計3台)において飲料を販売した。また、洗濯機及び乾燥機を設置し、ハイカー等へのサービス提供を行った。

【目的】

名取トレイルセンターを訪れるハイカー等の利用者に対し、休憩時の飲料を提供するとともに、長距離を歩くハイカーのニーズに対応するため、洗濯機及び乾燥機の貸出サービスを提供する。

【実施内容】

飲料の自動販売機は、ダイドードリンコ(株)2台及びコカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)1台の計3台を設置していたが、採算性等の理由により、令和7年度中に両社とも自動販売機を撤去することとなった。また、従来の家庭用乾燥機付き洗濯機では乾燥性能が十分ではなかったことから、新たに乾燥機を購入・設置し、サービスの向上を図った。



新設した乾燥機



TRAIL GATE内 飲料コーナー

考察、及び今後の展開

自動販売機の撤去により飲料提供環境に変化が生じたが、TRAIL GATEにおいてコカ・コーラや飲料水の販売を開始することで、利用者の利便性の維持に努めた。また、乾燥機を追加で設置したことで、長距離ハイカーのニーズに対応したサービスの向上につながった。今後も利用者ニーズを踏まえ、利便性の向上とサービスの充実に努めていく。

事業種別	(2) その他事業	事業番号	(2)-⑤-3
事業名 業務名	ハイカータグの製作・配布		
期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
委託元	-		
関係団体	一般社団法人トレイルブレイズハイキング研究所		
担当者	業務主任:柳田真澄 業務補佐:板谷学		
実施内容			
<p><b>【事業概要】</b> ハイカータグを製作・配布した。</p> <p><b>【目的】</b> ハイカータグはトレイル上に留まらず、街中におけるハイカー同士や地域住民との交流・コミュニティ創出を促すとともに、環境保全意識の啓発や安全対策に寄与することを目的とする。</p> <p><b>【実施内容】</b> ハイカータグの製作・配布 「Hiking MapBook」の購入者を対象に、バックパック等に装着できる「ハイカータグ」を新たに製作・配布した。トレイル上におけるハイカー同士、あるいはハイカーと地域住民との視覚的な目印(交流の契機)となるだけでなく、「みちのく潮風トレイルのハイカーであるという証」として周囲に認知されることで、一種の安全対策としても機能した。また、タグの裏面には「Leave No Trace7原則」を記載し、ハイカーへの環境保全思想の普及・啓発を同時に図った。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>			
<p><b>考察、及び今後の展開</b></p> <p>ハイカータグの配布は、ハイカーの所有欲を満たすだけでなく、トレイル内外でのコミュニティ形成において有効に機能した。ハイカータグは、LNT原則の啓発や安全対策に寄与した。</p>			

事業種別	(2)-⑤トレイル関連商品の販売事業	事業番号	(2)-⑤-4
事業名	オリジナルフレーム切手制作協力及び販売		
期間	令和7年10月1日～令和8年3月31日		
委託元	-		
関係団体	日本郵便株式会社東北支社、名取市、東北地方環境事務所		
担当者	業務主任:板橋真美 業務補佐:坂本麻由子		

実施内容

【事業概要】

名取トレイルセンター運営協議会の構成員である名取市、みちのくトレイルクラブ、環境省が郵便局と連携し、ラッピングポストをみちのく潮風トレイル名取トレイルセンターに設置するのに合わせ、当法人として、みちのく潮風トレイルオリジナルフレーム切手を作成した。

【目的】

みちのく潮風トレイルの魅力や沿線地域の風景を広く発信するとともに、ハイカーや地域住民がトレイルへの愛着を深め、コミュニティとのつながりを育むきっかけを創出する。また、オリジナルグッズとしての付加価値を通じて、みちのく潮風トレイルの認知度向上と継続的な関心の喚起を図る。

【実施内容】

写真家の岩間幸司氏やフォトコンテストのハイカー投稿写真から素材を厳選し、フレーム切手のデザインは日本郵便が作成した。完成した商品は、郵便局が1500枚を製作し、宮城県全域および、岩手県の主要郵便局、オンラインで販売。そのうち200シートを当法人がTRAIL GATE店頭で販売している。



ラッピングポスト除幕式・フレーム切手贈呈式当日  
(左から、日本郵便:大沼局長、当法人相澤事務局長、  
名取市:山田市長、東北地方環境事務所:東岡所長)





#### 考察、及び今後の展開

フレーム切手は、みちのく潮風トレイルの風景や魅力を目に見える形で伝えられる媒体として、多くの方に関心を持っていただくきっかけとなった。また、実際に歩いた方にとっては、旅の記念や思い出として手元に残るものであり、トレイルへの愛着を深めてもらう機会にもなったと感じている。ラッピングポストが名取トレイルセンターに設置されたことで、ハイカーが葉書を書き、切手を貼って投函するという一連の動作が完結できることになった。実際に、国内外のハイカーが、家族や友人宛に TRAIL GATE でポストカードと切手を購入し、ラッピングポストに投函している。日本郵便様の協力に感謝し、引き続き連携してハイカーや地域住民に向けた PR を行っていく。